

2026 年度

事業計画書

社会福祉法人 香南会

目 次

香南会事業運営方針		P 1 ~ 3
業務管理体制に基づく業務監査		P 4
◎総務部		P 5
◎経理部		P 6
◎人事部		P 7
◎教育部		P 8
◎登録支援機関(特定技能・介護)		P 9
◎栄養管理部		P 10 ~ 11
◎防災安全危機管理部		P 12
◎システム部		P 13 ~ 15
◎請求管理部		P 16
◎事故対策室		P 17
◎総合福祉ゾーンはまゆうの里		P 18 ~ 33
◎総合福祉ゾーンオークの里		P 34 ~ 42
◎総合福祉ゾーンキセキレイの里		P 43 ~ 52
◎総合福祉ゾーンもとちかの里		P 53 ~ 63
◎総合福祉ゾーン天空の里		P 64 ~ 71
◎総合福祉ゾーンやだけの里		P 72 ~ 78
◎赤とんぼの里		P 79 ~ 85

◎特別養護老人ホーム 安寿の里		P 86 ~ 87
◎新居浜事業所		P 88 ~ 93
◎専修学校 香南学園		P 94 ~ 95
◎特別養護老人ホームおおいずみの里		P 96 ~ 97
◎有料老人ホーム		P 98 ~ 105
◎特別養護老人ホームはるえの里開設準備室		P 106 ~ 107

2026 年度事業運営方針

法人の基本理念のもと、ご利用者・ご家族の皆様に安心していただけるような生活環境の創造に努め、社会福祉法人の使命として地域社会の福祉の充実・発展に寄与すべく事業運営にあたっております。さらに、持続可能な法人経営の実現を目指すとともに、サービスの質の向上、人材育成を重点目標に定め社会で求められる福祉需要や生活課題に取り組んでまいります

重点目標

1 質の高いサービスの提供

- ・4大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる
- ・データに基づく事故予防体制を構築し多職種連携による事故予防力の向上を図る
- ・認知症介護等、各部門において専門的な知識の習得と技能向上を図る
- ・介護業務の役割分担を明確にし適正な人員配置と生産性の向上を図る
- ・慢性期の医療需要の受け皿としての介護施設の役割を担っていく

2 経営基盤の安定に向けた取り組み

- ・各事業所は、施設長が中心となり運営目標を明確にし、着実に取り組むとともに、職員の経営意識向上を図り効率的な運営に努める。
- ・経営基盤強化策として法人の吸収合併計画を推進する

地域福祉の安定的かつ継続的提供体制の構築を目的として社会福祉法人山陽福社会を吸収合併する予定である。合併に伴い、事業・資産・負債・職員の雇用は法令に基づき承継し、合併後の経営基盤の強化及びサービスの質の向上を図る。

- ・施設整備の推進

- ・江戸川区特別養護老人ホーム整備事業については、整備計画に沿って進捗管理を行い、R9年7月末竣工に向けて取り組む
- ・香南赤岡苑の改築事業については、本年6月竣工予定に沿って工事進捗管理を行い、8月1日開設に向けて利用需要の調整及び対応職員の確保育成に強力に取り組む。

3 人材確保・育成・定着対策

- ・人材確保対策については、新規事業所開設に向けた効果的な求人活動を推進する
- ・研修参加や資格取得を引き続き促進し専門的な知識習得とスキルアップを図る
- ・技能実習生・特定技能生を受け入れ、日本語能力及び介護技術習得に向けて育成する
- ・定着対策として職員宿舎の整備を進める、さらに、外国人職員帯同家族にた

いする日本語学習支援を行い、生活の安定や地域社会への定着を促す。

4 専修学校香南学園の運営

- ・介護福祉士養成機関としての使命を果たすため、介護福祉士資格取得に向けた勉学の強化と生活の支援に取り組む

5 働きやすい職場環境

- ・各種休暇制度や年次有給休暇の取得促進や超過勤務時間の管理に努め働きやすい職場環境の整備に努める

6 危機管理対策の推進

- ・香南会自然災害（地震・風水害・土砂災害・原子力災害）対応基本方針に基づき事業所ごとに防災に取り組み、BCP 等を踏まえた業務継続に向けた訓練を実施する
- ・施設の老朽化対策を進める、特に設備機器を最新の省エネ機器に更新する補助金事業を活用し、ランニングコストの削減を図る

7 地域との連携

- ・社会福祉法人の使命として地域社会のニーズ把握と地域資源やネットワーク等を活かした取り組みを推進する

業務監査体制に基づく業務監査

基本方針

法人が運営する各種事業について、施設長及び副施設長が、関係法令に基づいた事業の運営状況の確認と評価を行うことにより、法令遵守、事業運営の適正化、職員の経営意識向上に努めます。

年度目標

- 1 厚生労働省作成の運営指導マニュアル等を活用し、関係法令の遵守、適正かつ安定した事業運営を目指す。
- 2 職員が正しい知識をもって事業運営に携わることができるよう必要な指導、助言を行い、人材育成に努める。
- 3 事業所の運営目標の明確化と取り組み状況の確認により、職員の経営意識向上につなげる。

総務部

基本方針

法人全体の事務業務を取り扱う部署として、法人の事業運営方針に従い各部署と連携を図り丁寧、迅速、的確に業務遂行に努め、常に創意工夫、能力向上を念頭におき業務にあたります。

年度目標

- 1 円滑な法人運営ができるよう執行部の指示に従い業務に取り組む
 - (1) 社会福祉法等関係法令の動向に迅速に対応し知識を深め法人運営に活かせるように努め、諸手続きについても遺漏なきよう業務にあたる。
 - (2) 社会福祉法に則り、常に迅速、正確な情報公開に努める。
 - (3) 業務管理体制組織図に従い、迅速かつ的確な事務処理に対応できるよう努める。
 - (4) 庶務業務の省力化に努める。
- 2 施設整備事業等の推進
 - (1) 香南赤岡苑移転改築計画について、関係部署と連携を図り円滑に計画を推進するとともに、8月の開設に向けて設備および備品等の発注納品処理、事務所移転の準備等、運営に支障をきたすことないように努める。
また、事業完成に伴う諸手続きについて迅速的確な対応に努める。
 - (2) (仮称) 特別養護老人ホームはるえの里整備事業について、東京都および江戸川区との諸手続き等遅滞なきよう対応に努めるとともに、工事期間中の関係各所の対応についても丁寧に対応し、円滑な事業推進に努める。
 - (3) 各事業所のLED改修事業について、補助金等を活用し整備を進めていく。
 - (4) 社会福祉法人山陽福祉会との吸収合併について、諸手続きを遅滞なく進めるよう努める。また、総務業務移行についても円滑に行えるよう努める。
 - (5) 東京都特別養護老人ホーム等新規整備案件の情報収集に努める。
- 3 事業所内保育所やまもも
 - (1) 定員増員および移転改築計画について、円滑に計画推進できるよう努める。また、移転に伴う保護者への説明等丁寧な対応に努める。
 - (2) 事故防止、職員の質向上を目指し、外部研修に参加するとともに自己研鑽に努める。

経理部

基本方針

事業運営の収支状況及び財務状態を分析し、関係施設長・部長とヒアリングを行い、長引く物価高騰などの課題を抱える中でも共同して経営の安定化を目指し収支改善に努めます。また、外部への情報公開をするにあたり、関係法令に則り、適切且つ効率的な事務処理を行います。

年度目標

1 会計監査について

- (1) 会計監査人の監査につき、会計基準との整合性はもとより、法令順守を徹底し、推進中の施設整備の特殊な事例に対しても適切に対応にあたる。

2 運営収支および財政状態の把握について

- (1) 財務諸表作成に関して、実施する事業の区分を設け、収支状況を明らかにし、資料を用いて分析を行う。また、分析結果を会議等の場へ提供し、幹部職員が経営管理・戦略を行う上で役立てることができるよう努める。
- (2) 関係施設長・部長とヒアリングを実施し、長引く物価高騰や人件費の上昇などの課題を抱える中でも経営の安定化を目指し、共同して収支改善に努める。

3 データ入力自動化の推進

- (1) 事業拡大により会計処理業務が増加する中でも、データ入力業務の効率化を意識し、入力時間の短縮や入力ミスの削減に努める。
- (2) 受取請求書の電子化移行や、保存書類の電子化を推進する。

人事部

基本方針

近年、職員の離職に伴う慢性的な人員不足が継続しており、現場負担の増加、サービスの質の維持への影響が懸念される。この課題の解消を最重要事項として位置づけ、外国人材を含む多様な人材の有効活用と各職場における人材の計画的な新規採用を推進する。

また、快適で働きやすい職場環境づくりを推進し、人材の定着及び離職の防止を図る。

年度目標

1 持続的な人材確保

- (1) 江戸川区特別養護老人ホーム整備事業、香南赤岡苑移転改築計画等の新規事業所における施設整備を推進するため、各職種について必要な人材の確保に努める。
- (2) 外国人材の受け入れにあたり、良好な関係を構築し定着を促進するため、離職防止に向けた職場環境の整備や社宅整備等、生活面でのサポート体制の拡充を引き続き図る。

2 定着のための職場づくり

- (1) 離職防止及び柔軟な働き方の実現に向け、育児・介護休業法に基づく各種制度について、職員が内容を理解できるよう、介護や子育て中の職員を中心に周知を行う。
- (2) 最低賃金の上昇への対応及び処遇改善加算の適切な配分により、職員の処遇改善を図り、人材の確保及び定着につなげる。

教育部

基本方針

介護のプロフェッショナルを育てるため、効率のよい研修を行い、職員の介護技術や専門的な知識の向上を図ります。また、勉強会を開催して職員の資格取得を推進します。

特定技能職員、技能実習生への支援、教育を適切に行い、外国人材の定着と地域との共生を目指します。

年度目標

1 質の高いサービスの提供

- (1) 4 大目標の取り組みを推進できるよう、外部講師による研修を取り入れる。法人内研修に参加しやすいよう時間や内容を工夫し、講師を務める部員自らも自己研鑽に取り組む。

2 人材の育成と定着対策

- (1) 介護福祉士国家試験、介護支援専門員実務研修受講試験の合格率上昇を目指し、受験者のニーズに合った勉強会を開催する。
- (2) 特定技能職員、技能実習生の介護技術や日本語能力を向上させるため、就労前研修を行う。また、安心して就労を続けられるよう適正な在留管理や防災教育、地域との共生にかかる支援を行う。出入国在留管理局や外国人技能実習機構への届出、申請に遅延や遺漏がないよう留意する。

登録支援機関

基本方針

支援委託契約に基づき、特定技能所属機関と特定技能外国人に対して適切な支援と指導を実施します。

年度目標

1 適切な支援の提供

- (1) 特定技能所属機関に対し、特定技能外国人受入れに関する援助や助言を行い、在留管理や関係機関への届出、申請が正しくできるよう支援する。
- (2) 特定技能外国人が安心して就労できるよう、定期面談において状況を良く聞き取り、特定技能所属機関と連携をとる。
- (3) 特定技能制度、登録支援機関について、関係法令や最新情報を常に把握するよう努める。

栄養管理部

基本方針

食事提供システムを強化し、利用者の健康維持と更なるQOLの向上を目指し、持続可能な給食の提供及び栄養管理を実践していきます。

年度目標

1、安定した食事提供

- (1) 作業工程数・業務の平準化を考慮し、クックフリーズ、クックチルに適した基軸となる献立を構成する。
- (2) 各事業所、利用者の特性に即した調理法や配膳方法を選択し、給食経営管理を行う。

2、栄養ケアの充実

- (1) 利用者の食事中の徴候・症状に対し、食事観察等を通じて適切な栄養介入を行い、食事摂取量の維持、改善に繋げる。
- (2) 摂取不良時には、栄養士が関与し、利用者の食べることを支援する。

3、危機管理対策

- (1) 非常災害時においても食事提供が可能となるよう体制の継続維持に努める。
- (2) 各食事形態に合わせた備蓄品を確保する。

栄養管理部 用語解説

クックチル： 加熱調理後 30 分以内に冷却を開始し、90 分以内に中心温度 3℃以下にし、喫食時間に合せ再加熱を行い盛り付け料理を提供するシステムである。

クックフリーズ： 加熱調理後 30 分以内に凍結を開始し、90 分以内に中心温度 -5℃以下まで、最終的には-18℃まで急速凍結して、冷凍保存し、食事提供の際に再加熱する調理法である。
加熱後の食品は、危険温度帯を短時間に通過させ、細菌が増殖しづらい温度帯で冷凍保存させるため、細菌増殖の危険性が低くなる。また、最大で 8 週間の保存が可能であるため長い期間での計画生産ができる。

防災安全危機管理部

基本方針

事業所ごとに懸念される自然災害（地震・風水害・土砂災害・原子力災害含む）に対して、利用者及び職員の安全を最優先とする実践訓練を推進する。

また、施設の老朽化（公用車を含む）等の修繕を計画的に行い、利用者の快適性や安心を確保できるように努める。

年度目標

1 防災について

- (1) 事業所で特に懸念される災害について、リスク回避ができる訓練が実行されるように課題改善を主導する。また、BCP実行するための課題解決に努める。外部研修に積極的に参加し、災害に対する知識等の共有に努める。
- (2) 各地の自然災害（原子力災害や人災を含む）の災害情報を迅速に収集し、法人及び事業所と情報共有を行い対応に努める。

2 施設（事業所）、公用車の管理について

- (1) 消防用設備、非常用自家発電設備、太陽光発電設備等の定期検査を行い施設の維持管理に努める。また、毎月実施の防災自主点検表を用い老朽化を早期発見し、計画的な修繕を行うよう主導する。
- (2) 公用車両の使用に偏りが出ないよう管理し、老朽化が進んでいる車両については計画に沿った入替えを行う。また、公用車の法定検査等を管理し、車両の維持管理に努める。

システム部

基本方針

デジタル技術の活用は、定型業務の自動化や情報共有の円滑化を通じて職員一人ひとりの業務負担を軽減し、それによって創出された時間を利用者様へのより質の高いケア提供に充てることを可能にします。これは、最終的に利用者様へのサービス品質向上の為の不可欠な好循環です。

システム部は、デジタル技術を活用し介護現場のみならず、間接業務における生産性の向上を推進します。2026年度は特に ICT 導入を推進することで、働きやすさの向上に取り組み、安全性と利便性を両立した運営体制を構築します。

年度目標

1 ICT 活用による生産性向上と職場環境の整備

- (1) 電子決裁システムの活用推進：情報管理のデジタル化をさらに進めるため、電子決裁システムの活用を推進する。これにより、業務プロセスの簡略化、情報共有の迅速化、決裁記録の正確性向上を実現する。
- (2) データセンター移行とサーバー基盤の部分刷新：南国データセンターを廃止し、新データセンターへの移行とサーバーOSの最新化を一体的に実施する。このプロジェクトにより、データ管理のセキュリティと処理能力を強化し、職員の利便性向上に貢献する。
- (3) 新事業所の ICT 環境整備：東京都江戸川区に開設する新事業所において、遅滞なく ICT 環境を整備する。特に、最新規格の Wi-Fi アクセスポイントを導入し、職員に快適な業務環境を提供する。

2 全職員の IT リテラシー活用能力向上と技能実習生への学習支援の具体的な支援策として、以下の取り組みを実施する。

- (1) 全職員向け IT スキル向上支援の継続：全職員を対象に、ICT 環境を活用し業務効率を高めるため AI 等のスキル習得支援を継続する。
- (2) 技能実習生向け学習環境の整備：技能実習生の「日本語能力」および「介護技術」の習得を支援するため、YouTube の限定公開動画を活用した学習環境の整備を推進し、効果的な学習機会を提供する。

システム部 用語解説

ICT (Information and Communication Technology)

「情報通信技術」と訳され、コンピューターなどの情報技術 (IT) に、インターネットやスマートフォンといった通信技術 (Communication) を組み合わせた技術のことです。ICTの導入は、職員間のコミュニケーションを円滑にし、情報伝達を迅速化します。場所を選ばずに連携が取れるようになることで、職員一人ひとりの働きやすさを高め、組織全体の生産性向上に貢献します。

電子決裁システム

これまで紙の書類と印鑑で行っていた稟議などの申請・承認プロセス (決裁) を、パソコンやスマートフォン上で行えるようにする仕組みです。導入により、「上司の承認を待つ時間」や「書類を回送する手間」がなくなります。誰が・いつ・何を承認したかの記録が正確に残るため、業務プロセスの大幅な簡略化と迅速化に繋がります。

データセンター

組織の重要な情報 (データ) を安全に保管・管理するために作られた、非常にセキュリティが強固な専門施設です。「データの保管庫」や「金庫」をイメージすると分かりやすいと思います。災害対策やサイバー攻撃への防御策が施されており、事業計画にある「南国データセンター」から新施設への移行は、大切な情報を守り、事業を継続していくための重要な取り組みです。

サーバー / サーバーOS

サーバーは、ネットワークを通じて、パソコンやスマートフォンに様々な情報や機能を提供してくれる高性能なコンピューターです。サーバーOSは、そのサーバーを安定して動かすための基本ソフトウェアを指します。普段利用しているシステムの多くは、このサーバーの上で動いており、計画にあるサーバー基盤の刷新とOSの最新化は、システムの処理能力を高め、職員の利便性向上に直結する重要な更新です。

Wi-Fiアクセスポイント

スマートフォンやノートパソコンなどを、ケーブルを使わずにインターネットに接続するための電波を送受信する中継機器です。東京都江戸川区に開設する新事業所へ新規格のアクセスポイントを導入することで、事業所内のどこに

いても、多数の職員が同時に、快適かつ高速な通信を利用できる業務環境を整備することができます。

ITリテラシー

IT（情報技術）を正しく理解し、それを業務などで効果的に使いこなす能力のことです。単にパソコンが操作できるだけでなく、インターネット上の情報を正しく判断する力や、セキュリティリスクを理解して安全にIT機器を利用する力も含まれます。全職員のITリテラシー向上が、組織全体の生産性を高める上で不可欠となります。

AI（Artificial Intelligence / 人工知能）

コンピューターが、まるで人間のようにデータから学習し、物事を判断する技術のことです。AIを活用することで、これまで人が行っていた定型的な事務作業を自動化したり、膨大なデータの中から業務改善に繋がるヒントを見つけ出したりすることが可能になります。スキル習得支援は、職員の皆様がAIを使いこなし、業務をさらに効率化するためのものです。

YouTubeの限定公開動画

動画共有サイトYouTubeの公開設定の一つで、動画のURL（リンク）を知っている人だけが視聴できる仕組みです。検索結果などには表示されません。この機能を活用することで、リスクを減らし、技能実習生を対象とした「日本語能力」や「介護技術」に関する研修動画をより安全に共有し、効果的な学習機会を提供することができます。

請求管理部

基本方針

法人が運営する施設等の請求業務（介護報酬、支援費、措置費、県費など）について、各々の法令に基づき正しく請求処理が行えていることを確認、把握、分析し、コスト意識を持って安定した収入を確保できるよう努めます。

年度目標

- 1 毎月の請求業務について
 - (1) 各事業所からの実績情報に誤り等がないことを確認する。またそれを元に、請求ソフト（WINCARE）等に正しく入力できているか、入力漏れはないかなど正確に請求処理が行われていることを確認し、返戻や過誤がないように努める。
- 2 請求内容（体制、加算、稼働）について
 - (1) 各事業所で算定している体制・加算等を把握し継続して算定できるよう事業所と情報を共有する。また関係機関からの常に最新情報を収集し新たな加算を提案する。
- 3 正確且つ迅速な業務遂行について
 - (1) 定期的な制度改正や、人事異動に伴い事業所の管理者や相談員等が変わることも視野に入れ、常に正確迅速な請求業務を遂行するために、研修等に積極的に参加する。また、関係職員（相談員、管理者など）を対象に請求ソフト（WINCARE）等を上手に活用することで操作誤りの減少や、入力時間の短縮に繋がることから説明会などの開催や、各保険制度（介護保険等）以外に、生活保護法や社福減免、原爆助成金など収入に関わる制度についての知識を深め経営意識の向上に努める。
- 4 報酬等及び利用者負担金の回収管理について
 - (1) 介護報酬等では返戻などにより請求漏れがないように、利用者負担金では未納が常態化しないよう、またそれが長期末納とならないよう留意し、関係部署と連携を取りながら回収管理を行う。

事故対策室

基本方針

法人全体の状況を正確に把握し、エビデンスに基づいた安全管理を徹底することで、利用者の尊厳と権利を守りながら、医療・介護事故の削減を目指します。また、各事業所および部署が連携し、事故に関する知識の向上や介護の質の向上に努めることで、法人全体の安全管理体制の構築を目指します。

年度目標

- 1 科学的根拠に基づく安全管理を徹底し、医療・介護事故の低減を目指す。
 - (1) リスクマネジメント体制の構築
 - ① 科学的根拠と事例分析に基づき、予防可能な事故を確実に防ぐ。
 - ② 事故やヒヤリハットの報告と分析プロセスの透明性を確保し、PDCAサイクルに基づく改善を行う。
 - ③ 環境要因、利用者特性、業務プロセスにおける潜在的リスクを定期的に評価し、具体的な予防策をハード面及びソフト面含め策定する。
 - (2) データベースの構築
 - ① 事故報告データを継続的に収集し、リスク傾向や再発防止策の有効性を統計的に分析する。
- 2 職員の安全教育と介護の質向上
 - (1) 最新の研究成果や事例検討を活用した研修を行い、事故やヒヤリハットの適切な記録方法を学び、全職員にその重要性を理解してもらう。
 - (2) 中間管理職に対し、安全管理の知識と介護技術が身につけられる研修を実施することで、職場での安全管理活動をマネジメントできる能力を育成する。
- 3 安全管理体制の構築
 - (1) 現場からの報告を基に原因を分析し、迅速に改善策を提示することや業務の中でリスクマネジメント指導やフィードバックを行い、現場に即した安全管理体制を構築できるよう努める。
 - (2) 各事業所および各部署の連携状況を定期的に評価し、連携の課題や改善点を特定し、体制の見直しや連携の質を高めるよう努める。

総合福祉ゾーン

はまゆうの里

- ・ 総合福祉ゾーンはまゆうの里 ……P19
- ・ 特別養護老人ホーム 香南赤岡苑 ……P20
- ・ デイサービスセンター 陽だまり ……P21
- ・ 生活介護事業 いきいき ……P22
- ・ ケアハウス ぬくもり ……P23
- ・ ヘルパーステーションはまゆう ……P24
- ・ ケアプランセンター はまゆう ……P25
- ・ グループホーム せんだんの里 ……P26
- ・ グループホーム きんもくせいの里 ……P27
- ・ グループホーム ゆうりこう ……P28
- ・ グループホーム ふなとの里 ……P29
- ・ 老人保健施設しお風 ……P30
- ・ 老人保健施設しお風通所
リハビリテーション ……P31
- ・ 訪問看護ステーションあおぞら ……P32
- ・ 訪問看護ステーションキセキレイ ……P33

総合福祉ゾーン はまゆうの里

基本方針

はまゆうの里は、安定した事業運営のために外国人職員を含む介護人材の確保・育成に努め、4大目標の取り組みを通じて職員の一人ひとりの介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指します。また、介護業務の役割分担の明確化・業務改善などの生産性向上の推進と働きやすい職場環境の整備、地震や風水害等の自然災害に備えて地域毎の被害想定を踏まえた危機管理対策の強化に取り組んでまいります。

さらに香南赤岡苑の8月1日移転開設に向けて、進捗状況を管理するとともに、広報活動・求人活動を計画的に行い、新規利用者の獲得と必要人員の確保に努めます。開設後は、ユニット型特養の特性を活かして利用者・家族に家庭的な雰囲気や安心を感じて頂けるケアに取り組めます。

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
- 4 整備計画に基づく香南赤岡苑の移転開設と開設後の事業の早期安定化

特別養護老人ホーム 香南赤岡苑

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 職員の育成を強化し、専門性を高める。
 - ① 「やさしい日本語」を活用し、外国人職員の語学力と職員の指導力の向上を図る。
 - ② ケア研修や資格取得の推進により、職員の知識・技能を高める。
 - (2) サービスの質を向上させるための取り組みを継続する。
 - ① 利用者ごとのリスク評価（転倒・誤嚥・褥瘡）を見直し、事故を的確に分析し再発防止に努め、事故件数を前年度比5%削減する。
 - ② OHAT や適切な口腔ケア計画を実施し、誤嚥性肺炎ゼロを目指す。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 効果的な運営に向け多職種が連携して経営の安定化を図る。
 - ① 居宅・医療機関を中心に計画的に広報活動を実施し、入所稼働率96%、短期入所稼働率90%を目標に待機者確保に努める。
 - ② 質の高い看取り介護を継続できる体制を整備し、勉強会等を通じて看取り介護の充実を図る。
 - ③ 利用者の体調変化を早期発見し、健康管理の強化や褥瘡発生数の削減（昨年度比）に取り組み、在籍日数の長期化を図る。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 職員の負担軽減と、緊急時への備えを強化する。
 - ① 有給休暇の取得推進、生産性向上委員会を継続し、業務改善及びICT機器導入の検討等、職場環境の改善を目指す。
 - ② BCP に沿った災害時の訓練や感染症対策を実践し、災害発生後の役割分担や初動対応を明確にし、危機管理体制を強化する。
- 4 整備計画に基づく香南赤岡苑の移転開設と開設後の事業の早期安定化
 - (1) 移転開設に向けた準備と、その後の安定運営を目指す。
 - ① スケジュール管理を行い、広報活動、備品整備等を計画的に進める。
 - ② 業務マニュアルの整備や研修を通じて、ユニットケア体制を確立し、早期満床を目指す。
 - ③ ユニット型の特性を活かし、利用者一人ひとりの価値観を尊重した個別ケアを実践する。

デイサービスセンター 陽だまり

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 計画的な人材育成を推進し、事業運営の安定化を図る。
 - ① 職員の実務経験や技術等に応じた研修計画を立案し参加する。
 - ② 伝達講習を実施することで知識や技術の向上に努め、質の高いケアに繋げる。
 - (2) 専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
 - ① 認知症利用者の尊厳と自尊心に配慮したケアを提供する。
 - ② 利用者の状態に応じた通所介護計画書を作成し、統一したチームケアを実践する。
 - ③ 家族や関係機関と連携を図り情報を共有する。
 - ④ ヒヤリ・ハット報告書を分析し重大事故防止に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 利用者の健康管理を適切に行い、事業運営の安定化を図る。
 - ① 利用者の健康状態の観察を行い、異常の早期発見に努める。
 - ② 担当者会議にて情報交換、情報収集を行う。
 - ③ 平均稼働率 96%を目標とし、利用者の定着化を目指す。
 - ④ 手洗い、嗽、換気等の感染症対策を徹底する。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 働きやすい職場環境を整備する。
 - ① 業務の明確化と役割分担、マニュアルの作成、見直しを行う。
 - ② 職員間の声掛けを増やし、協力、助け合いの意識を高める。
 - ③ 有給取得年間計画に沿って有給休暇を取得する。
 - (2) 自然災害に備え、防災訓練や防災対策の強化を図る。
 - ① BCP やマニュアル等の整備、見直しを行う。
 - ② 計画的に防災訓練を実施し、災害に対する意識向上に努める。
 - ③ 防災委員会等で取り上げられた事柄を事業所内で周知する。

生活介護事業 いきいき

年度目標

1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供

- (1) 生産性向上につながる業務体制を整える。
 - ① 内部研修計画に沿って研修に参加し、知識、技術の向上を図る。
 - ② 業務分担表を作成し、現場で迷いなく動ける体制をつくる。
 - ③ ヒヤリ・ハット報告を分析して事故防止、業務改善に繋げる。
- (2) 利用者個々にあったサービス提供を行う。
 - ① 個別支援計画書を共有し、統一したケアを行っていく。
 - ② 定期的に利用者への聞き取りを行い、個別活動を充実させていく。
 - ③ 好きなこと、嫌いなことを知り、強制せず参加の形を選べるようにする。

2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定

- (1) 待機者の確保に努め、事業運営の安定を図る。
 - ① 特別支援学校の実習受け入れを積極的に行い、将来的な利用につなげる。
 - ② 月1回医療機関へ広報活動に行き、利用者確保に努める。
- (2) 障害に対しての理解、経営意識の向上を図る。
 - ① 専門性の向上に向けて、障害に特化した資格取得を推進していく。
 - ② 収支状況を職員間で共有し、経営意識の向上に努める。

3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化

- (1) 香南会の災害対応方針を理解し、業務に反映させる。
 - ① BCP、マニュアルの整備と見直しを定期的に行う。
 - ② 行動指針を基に災害時に職員が自立して行動できるよう、日頃の訓練で防災意識を高める。
- (2) 働きやすい職場環境づくりに取り組む。
 - ① 有休取得計画を作成し、計画的に有休を取得する。
 - ② 職員と定期的に面談の機会を設け、相談をしやすい環境設定を行う。

ケアハウスぬくもり

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) リスクマネジメント体制を強化し、重大事故防止に努める。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を1人1日1枚以上提出し事故を未然に防ぐ。
 - ② 多職種と情報共有を図り、利用者の状態に合わせた福祉用具の選定や環境整備を行う。
 - (2) 感染症防止対策を徹底する。
 - ① 標準予防策と職員の健康管理を徹底することで感染対策を強化する。
 - ② 利用者の日々の心身状態を把握し関係機関と情報共有することで、異常の早期発見に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 稼働率の安定を図り、安定した事業運営を行う。
 - ① 目標稼働率97%を達成するため月30件以上の広報活動を実施し、待機者確保に努める。
 - ② 毎月の稼働率・収支状況の把握、分析を行い運営の安定を図る。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 職員が安心して働ける職場環境を整備する。
 - ① 計画的に年5日以上の有給休暇を取得する。
 - ② 5S活動を通して、仕事の質の向上に繋げる。
 - (2) 自然災害に備えた防災体制の強化を図る。
 - ① 防災訓練に参加し、避難行動が的確に行えるようにする。
 - ② 必要に応じて防災マニュアルを見直す。

ホームヘルパーステーション はまゆう

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 職員個々の資質向上に取り組む。
 - ① 職員全員が個々の年間研修計画を立て、自身の目標に沿って法人内外の研修に参加する。
 - ② サービス提供責任者の研修に参加し、中堅職員の育成と専門性の向上に努める。
 - (2) 事業所内勉強会を毎月実施し、必要な知識の習得を図る。
 - ① 毎月の職員会で研修報告、勉強会を実施し、知識、技術の共有を図り能力向上につなげる。
 - ② 生産性向上委員会に参加し、事業所の問題、課題の解決に役立てていく。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 関係事業所との連携を図り、利用者に応じたサービスを提供する。
 - ① 利用者の状態変化に応じたサービスが提供できるよう、多職種、関係事業所との連携を密に図っていく。
 - (2) 管理者は毎月の収支状況の把握、増減の要因を分析し、安定した運営を目指す。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 感染症及び災害時の事業継続計画（BCP）に基づいた研修、訓練を実施する。
 - ① 災害時に迅速な行動ができるよう、訪問先の事業所で行われる避難訓練に参加する。
 - (2) 働きやすい職場環境を構築し、離職率低下を目指す。
 - ① 定期的に職員との面談を行い、職員が働きやすい職場環境を考える。
 - ② 職員全員が年5日以上の有給休暇を取得する。

ケアプランセンター はまゆう

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 介護支援専門員一人ひとりのスキルや経験に応じて、内部・外部研修へ計画的（年2回以上）に参加し、制度理解・専門知識・実践力の向上を図る。
 - (2) 特定事業所として、勉強会や事例検討会に積極的に参加し、ケアマネジメントに必要な知識や視点を深め、支援の質の向上につなげる。
 - (3) 多職種連携を通じて得られた情報を活用し、専門的視点を統合したケアプランの作成・見直しを行う。
 - (4) 主任介護支援専門員が中心となり、定期的に指導・助言を行い、困難事例や課題事例について事業所内で共有・検討する体制を整える。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 利用者数、担当件数、加算算定状況等の運営指標を定期的に把握し、事業所の運営状況を可視化する。
 - (2) 運営状況の分析結果を職員会等で共有し、職員一人ひとりが事業運営への理解を深め、安定的かつ継続的な事業運営に参画できる体制を構築する。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 職員会を定期的を開催し、意見や提案を出しやすい職場環境を作る。
 - (2) ICTを活用してケアプラン作成、記録管理、情報共有の効率化を図り、業務負担の軽減と支援の質の向上を両立させる。
 - (3) 事業継続計画（BCP）を定期的に見直し、災害時や感染症発生時においても、利用者支援を継続できる体制を整備する。
 - (4) 防災・感染症対策等に関する研修や訓練に参加し、職員の危機対応力の向上を図る。

グループホームせんだんの里

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 認知症に対する専門的な知識の習得や技術の実践力向上を図る。
 - ① 事例検討やBPSDへの対応などの具体的な内容の勉強会を毎月開催する。
 - ② 多職種連携による個々の状態に応じたケアプランの作成、定期的な評価や支援による効果の確認を行い、サービス内容の充実を図る。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 年間平均稼働率 99%を維持し、安定した収入を確保する。
 - ① 利用者の体調管理、必要時の早期調整にて、急な退居や入院をなくし、稼働の安定を図る。
 - (2) 職員の経営意識向上とチーム力の向上を図る
 - ① 必要物品の購入や修理、節電、節水などの経費削減について、毎月の職員会で共有・検討し、経営の安定に努める。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 働きやすい職場環境により職員の定着を図る。
 - ① 年間 5 日以上の有給取得や各種休暇制度の利用、超過勤務時間の管理を毎月行い、働きやすい職場環境づくりに努める。
 - ② ノーリフティングケア研修への参加と実践により、職員の腰痛予防及び安全確保に努める。
 - (2) 災害時の対応及び事業の継続が図れる体制を確保する
 - ① 年間計画に基づき BCP に沿った訓練を実施、訓練の評価、計画の見直しを行い、災害時に迅速に対応ができる体制を作る。
 - ② 地域資源の活用や地域活動に参加することで地域との交流を図り、連携体制を強化する。
 - ③ 備蓄品を整備し、物資の確認を定期的に（年 2 回以上）実施する。

グループホームきんもくせいの里

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 外国人を含む介護職員のスキルアップを図る。
 - ① 多職種との連携により、個人のニーズに応じた質の高いサービス提供を行う。
 - ② OJT 指導の実施により、外国人職員のスキルアップ及び指導に当たる職員の指導力向上を図る。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 待機者の確保や日々の健康管理にて、稼働率の安定を図る。
 - ① 利用者の健康管理やリスクマネジメント体制の充実による骨折予防にて利用者の状態安定を図る。
 - ② 他事業所との連携にて住み替えや待機者の紹介を行うと共に、利用者の受け入れ体制を強化し、早期の入居調整に努め平均稼働率 99%を目指す。
 - (2) 適切な物品管理等を行い、コストの削減につなげる。
 - ① 物品の使用方法や保管場所、使用にあたっての注意事項などを見える化し、適切な管理及び使用に努める。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 業務の効率化等の生産性の向上及び職場環境の整備を行う。
 - ① 定期的に設備や備品の確認、整理整頓を行う事で効率的に使用できる環境を整備する。
 - ② 各種委員会の活動を通じて、自然災害等に関する研修参加や防災訓練の実施にて防災対策の強化を図る。
 - ③ 個々の職員との定期面談や、計画的な有給休暇の取得に向けて勤務調整等を実施する。

グループホームゆうりこう

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 認知症に特化した知識や対応方法などの技術を習得する。
 - ① 事業所内の認知症ケア会議にて、事例検討やBPSDへの対応などの具体的なケア方法を学ぶ。
 - ② 多職種と情報共有のもとケアプランを作成し、定期的な評価にて支援による効果を確認し、支援内容の充実を図る。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 平均稼働率 99%を維持し、安定した収入を確保する。
 - ① 利用者の体調管理、必要時には早期調整にて急な退居や入院を減らし、稼働率の安定を図る。
 - ② 空床期間が月平均 5 日以内となるよう、常時待機者の確保を行い早期入居につなげる。
 - (2) 他事業所との情報共有にて事業の安定を図る。
 - ① 広報活動範囲を広げ法人全体の事業所紹介、空き状況等の情報提供に努める。
 - ② 利用者・家族の希望に応じた事業所の紹介や他事業所への住み替えがスムーズに行えるよう、日頃から法人内の事業所間の連携体制を確保する。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 災害時の対応及び事業の継続が図れる体制を確保する。
 - ① 定期的にBCPに沿った訓練を実施し、訓練による効果の評価や計画の見直しを行う。
 - ② 訓練を通して事業所の消防設備の設置場所の確認や使用方法の習得など、防災に関する知識の向上を図る。

グループホームふなとの里

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 認知症ケアの知識と技術の習得により、全人的ケアを提供する。
 - ① WEB研修等を活用し、隙間時間に毎月研修に参加する。
 - ② 職員個々の能力に応じ、現場でのOJTやOFFJTを行う。
 - ③ 4大目標の取り組みを推進する。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 平均稼働率99%以上を維持し、安定した事業運営を目指す。
 - ① 法人の強みや独自の価値をアピールした広報活動を行い、地域におけるブランディング力を向上させる。
 - ② 医療やその他の職種との連携により、専門性の高い認知症ケアを提供する。
 - ③ ヒヤリ・ハットや福祉用具の活用、環境整備など事故予防に重点を置き、重大事故ゼロを目指す。
 - (2) 他事業所と連携し、稼働率安定に向けた協力体制を構築する。
 - ① 重度利用者の住み替えを積極的に調整する。
 - ② 広報活動により待機者を確保すると共に、他事業所と情報共有を行いスムーズな入居調整に努める。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 現場の負担を軽減しながら職員が自然と育つ仕組みを構築する。
 - ① ICTの活用促進とデジタル化により、ケア時間を確保する。
 - ② 業務改善により、職員の負担軽減や生産性の向上を図る。
 - ③ 非常災害時に備え実践的な訓練及び実施後に振り返りを行い、日頃から災害時に柔軟に行動できる体制を構築する。

老人保健施設しお風

年度目標

- 1 データに基づく質の高い安全なサービスと人材育成
 - (1) データに基づく多職種連携と個別ケアの質向上
 - ① 骨密度や OHAT、モイスチャーチェッカー、LIFE 等の各種データを活用し、定期的なカンファレンスを通じて多職種で情報共有を行い、利用者一人ひとりに応じたケアプランの作成・見直しを行うことで、根拠に基づいた質の高いサービス提供を目指す。
 - (2) ヒヤリハット活用による事故予防と安全管理の強化
 - ① ヒヤリハット事例をもとにリスク要因を分析し、職員への周知と再発防止策の共有を徹底することで、事故の未然防止および発生件数の減少を図り、安全で安心なサービス提供体制の構築に努める。
 - (3) 多職種で学びの共有による専門性と組織力の向上
 - ① 認知症や看取り研修への計画的な参加と伝達講習を通じて知識・技術が多職種で共有し、自己研鑽と職員全体の専門性・対応力の向上を図り、サービスの品質向上につなげる。
- 2 運営状況の把握と職員への周知による経営意識の向上
 - (1) 運営状況の分析や確認を行い、目標稼働率 98%の達成に向けて職員への周知を図るとともに、経費削減を含めた事業運営への理解を深める。
- 3 働きやすい職場環境の整備
 - (1) 生産性向上委員会での協議を通じて課題解決と業務内容の見直しや改善に取り組む。
 - (2) 計画的な有給休暇の取得を進めるとともに、勤務管理を適切に行い、職員同士の連携や円滑なコミュニケーションを大切にしながら、働きやすく定着しやすい職場環境づくりに努める。
- 4 自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) BCP およびマニュアルの見直しと備蓄品管理を徹底し、定期的な訓練を通じて被災時の行動確認や振り返りを重ね、実践的な対応力の向上を図る。

老人保健施設しお風 通所リハビリテーション

年度目標

1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供

- (1) リハビリテーションと介護ケアの質向上を図る。
 - ① 経験年数、資格等考慮し、個々の目標に応じた研修へ参加する。
 - ② 朝礼やデイケア会、担当者会議等にて多職種と情報共有を図り、統一したケア提供を実践する。
 - ③ 客観的指標に基づく評価を行い、個別性が高く、利用者ニーズに沿ったサービス提供を目指す。
- (2) 利用者の心身状態に応じた活動や有効なレクリエーションを提供する。
 - ① 個々の心身機能を把握したうえで、機能維持・改善に有効なレクリエーションを実施する。

2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定

- (1) 安定した事業運営を行い、稼働率の安定を図る。
 - ① 広報活動を行い、新規介護支援事業所や利用者獲得へ繋げる。
 - ② 稼働率や収支について毎月のデイケア会で報告し、分析や課題を話し合うことで職員の経営意識を定着させる。

3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化

- (1) 安心して働ける職場環境を作る。
 - ① 計画的な有休休暇取得を進め、働きやすい職場環境に努める。
 - ② 業務を見直し、サービスの質や業務の効率化を図ることで、職場環境の改善や生産性向上を図る。
- (2) 職員の危機管理能力の向上や危機管理体制の構築
 - ① 計画的な防災訓練を通じて、職員の危機管理能力の向上や、定期的なBCPの見直しを行うことで危機管理体制の強化を図る。

訪問看護ステーション あおぞら

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 個々の経験等に応じた外部研修への参加を年1回促進し、得た知識を事業所内で共有し、より質の高いサービス提供につなげる。
 - (2) 資格取得（衛生管理者・医療的ケア教員）に取り組み個々のスキルアップを図る。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 毎月の収支状況について、変動の根拠を的確に把握し、スタッフ間で共有、経営に対する意識を高める。
 - (2) 在宅部門の医療的ニーズを担う部署として、日々利用者の健康管理に努め、必要時は速やかに医療に繋げる。
 - ① 医師、関係部署との連絡体制を整え早期対応に努める。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 職場環境の改善、業務の効率化等の検討
 - ① 計画的に有給休暇を取得できるよう業務の改善、効率化を図る。
 - ② 職員一人一人と面談できる場を年2回設け、職員のモチベーション管理に努める。
 - (2) 事業継続計画（自然災害対策）の実践、具体的な運用
 - ① 毎月の緊急連絡訓練に加え、実践的訓練に年1回以上参加し、職員の防災意識を高める。
 - ② 緊急連絡網の整備や備品の点検を年2回は行い災害時に備える。

訪問看護ステーション キセキレイ

年度目標

- 1 福祉人材の確保・育成の強化と質の高いサービスの提供
 - (1) 事故防止、リスクマネジメント体制の充実（事故予防力の向上）
 - ① ヒヤリハットを活用して事業所内で事故防止検討会議を1回/月開催し、問題点を抽出、検討し事故防止につなげる。
 - (2) 認知症ケアの推進（専門的な知識の習得、技能の向上）
 - ① 事業所内で認知症ケアの勉強会と検討会議を1回/月開催し、知識を深め実践的なコミュニケーション技術対応力の向上を図り、問題点を抽出することでより質の高いサービス提供につなげる。
 - (3) 研修参加や資格取得の推進、職員の知識・技能、意欲の向上
 - ① 医療的ケア教員の資格取得に努める。
 - ② 職員個々のスキル向上、専門性を高めるために1回/年、外部研修に参加する。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理による経営基盤の安定
 - (1) 職員の経営意識の向上、事業所の運営状況の把握と状況分析の実施
 - ① 事業所の運営状況を毎月開催される運営会議の場で報告する。
毎月の収支増減の要因を的確に分析し経営状況を把握、収支の安定につなげる。
 - ② 新規利用者獲得に向けての検討会を1回/月行う。
訪問看護サービスを必要とする利用者の抽出と、訪問回数や看護師、理学療法士の職種適正の検討を行い、新規サービスに繋げ経営の安定に努める。
- 3 働きやすい職場環境の整備と自然災害等に対する危機管理対策の強化
 - (1) 防災危機管理対策の充実（事業継続計画：BCPの見直し・強化・訓練）
 - ① BCP運用を想定したマニュアル等の見直しを1回/年行い、内容をより実効性の高いものに改善、周知していく。
 - ② InCircleを活用した連絡体制訓練の実施。
法人全体と事業所内で1回/月、連絡体制訓練を行い防災意識を高める。

総合福祉ゾーン オークの里

- ・ 総合福祉ゾーンオークの里 ……P35
- ・ 障害者支援施設のぞみの家 ……P36
- ・ デイサービスセンター 丹心苑 ……P37
- ・ ケアハウス まごの手 ……P38
- ・ グループホーム なごみの里 ……P39
- ・ 特定相談支援事業所 のぞみ ……P40
- ・ 共同生活援助オレンジハウス ……P41
- ・ 維新工房きらり ……P42

総合福祉ゾーン オークの里

基本方針

総合福祉ゾーンオークの里では、介護のプロフェッショナルの育成と、データに基づく質の高いサービス提供に取り組み、4大目標の達成を目指します。事業運営については、各事業所の運営目標を明確にするとともに、生産性の向上を図り、堅実かつ効率的な事業運営に努めます。危機管理対策として、地域社会との連携を図りながら、南海トラフ巨大地震に備えた実践的な訓練を行うほか、防犯体制の見直しを行い、危機管理体制の強化を図ります。

年度目標

- 1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づくサービス提供に取り組み、4大目標の達成を目指す
- 2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営
- 3 危機管理体制の強化

障害者支援施設 のぞみの家

年度目標

- 1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービス提供に取り組む、4大目標の達成を目指す。
 - (1) 各専門職が連携し、質の高いサービス提供と4大目標達成を目指す。
 - ① 連携を図りながら、適切なアセスメントとカンファレンスのもと、個々の障害特性に応じた質の高いサービスを提供する。
 - ② ICT機器の提案やデモ機の導入を進め、補助金制度を活用することでノーリフティングケアの推進に取り組む。
 - ③ 事故防止に対する意識付けを職員に促し、リスクマネジメントの意識を持って事故防止に取り組むことで、重大事故0を目指す。
 - ④ 口腔ケア推進士の資格取得者を推進し、適切な口腔ケアの知識と技術を培った人材を活かすことで誤嚥性肺炎0を目指す。
 - (2) プロフェッショナルな人材の育成と資質向上を目指す。
 - ① 施設内外の研修へ積極的に参加し、知識や技術の向上に努め、高品質なケアを提供する人材を育成する。
 - ② 外国人職員に対し、定期的な研修のほか、精神面やモチベーションを含めた多角的な支援を行い、即戦力として活躍できるよう育成する。
- 2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営
 - (1) 安定かつ適切な事業運営を目指す。
 - ① 稼働率目標を入所95%、短期入所45%とする。
 - ② 利用者の健康管理を徹底し、入所生活の安定化に努める。
 - ③ 関係機関との情報共有を図り、スムーズな入所調整に努める。
 - (2) 収支の安定化と生産性の向上を図る。
 - ① 毎月の運営会議で収支状況の把握と共有に努めるほか、業務プロセスの可視化・標準化・削減等を行い、生産性向上に取り組む。
- 3 危機管理体制の強化
 - (1) あらゆるリスクに対し、持続可能な運営体制を整備する。
 - ① 香南会自然災害対応基本方針を基に実践的な防災訓練を実施する。
 - ② 地域の訓練等に参加することで災害時における協力体制を強化する。
 - ③ 防災・防犯に関する整備を進め、危機管理体制の強化に取り組む。

デイサービスセンター 丹心苑

年度目標

- 1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービス提供に取り組む、4大目標の達成を目指す
 - (1) リスク管理をしっかりと行うことで事故を防止する。
 - ① 職員にヒヤリハット報告を促し、事故防止に対する意識付けを行う。
 - ② ヒヤリハット報告を活用し、収集した生活環境上の問題点の情報から危険予測を行い、未然防止策を講じる。
 - (2) 口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の予防に努める。
 - ① 介護口腔ケア推進士の資格取得を目指す。
 - ② 研修へ参加することで専門的な知識や技術向上に努める。
 - (3) 利用者個々に合わせた専門性の高いサービスを提供する。
 - ① 利用者個々の状態やニーズをしっかりと把握したうえで通所介護計画書・個別機能訓練計画書を作成し、個別性のあるサービスを提供する。
 - ② 計画の実施・評価・見直しを行い、提供するサービスをマネジメントすることで質の向上に努める。
- 2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営
 - (1) 稼働率目標を97%とする。
 - (2) 関係事業所と連携し、利用者の状態やサービス状況等の情報を交換することで、効率的なサービス調整を行う。
 - (3) 定期的に収支状況を確認・分析することで無駄な支出を抑え、収支の安定化を図る。
- 3 危機管理体制の強化。
 - (1) 最新のハザードマップの確認や、BCPやマニュアル等の見直しを行うことで、非常災害時にスムーズに対応できるよう努める。
 - (2) BCPに基づく実践的な防災訓練を実施する。
 - (3) 地区の清掃活動や防災訓練等へ参加し、顔なじみの関係を築くことで、非常時における協力・連携体制の強化に繋げる。
 - (4) 防災・防犯に関する必要物品の整備を行う。

ケアハウス まごの手

年度目標

- 1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービス提供に取り組む、4大目標の達成を目指す
 - (1) アセスメントに基づく計画作成により質の高いサービスを提供する。
 - ① 多職種協同によるアセスメントをもとに計画立案・見直しを行い、ケアの質を高めることで、事故防止に繋げていく。
 - ② 専門的知識を習得し、医療的ニーズに対応できるよう努める。
 - ③ 骨密度測定の結果を関係各所で共有し、骨折リスクを見積もったうえで居室環境や福祉用具の選定を行い、骨折予防に努める。
 - (2) 人材を育成し、介護実践力の向上に取り組む。
 - ① 計画的に研修（WEB研修含む）へ参加して専門的な知識や資格の取得に努める。
 - ② 個々の能力や経験に応じた個別指導を実施し、介護実践力の向上を図る。
- 2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営
 - (1) 運営目標を明確にし、稼働率安定化を図る。
 - ① 目標稼働率を98%とする。
 - ② 対面重視の広報活動を展開し、地域との関係を構築することで、毎月1名以上の待機者を確保し、スムーズな入退居調整を行う。
 - ③ 利用者の病状管理を徹底し、異常の早期発見・早期対応に努める。
 - (2) 生産性向上に努め、働きやすい職場環境を整備する。
 - ① 業務内容を洗い出し、不要業務の削減やマニュアルの整備を行い、職場環境の改善に努める。
- 3 危機管理体制の強化
 - (1) 非常時に適切に対応できる危機管理体制を整備する。
 - ① 香南会自然災害対応基本方針及びBCPを基にした実践的な訓練を計画的に実施する。
 - ② 地域の防災訓練等に参加することにより、非常時における相互の役割等を確認し、連携強化に努める。
 - ③ 防災・防犯に関する必要物品の管理と整備に努める。

グループホームなごみの里

年度目標

- 1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービス提供に取り組む、4大目標の達成を目指す。
 - (1) チームケアに基づいた質の高い認知症ケアを提供する。
 - ① 多職種と連携し自立支援に向けた計画を作成するとともに、定期的なアセスメントと、計画の見直しを行うことでケアの質を高める。
 - ② 職員間での情報共有を積極的に行い、利用者個々の能力や特性に応じたケアを提供する。
 - (2) 専門性の高い認知症ケアを実践できる人材を育成する。
 - ① 法人内外の研修に参加し、認知症ケアに関する最新知見を習得する。
 - ② 認知症介護指導者による指導や、研修で得た知識と技術を、実際の業務を通して実践し、職員個々の実践力向上に努める。
 - (3) リスクマネジメントを強化し、重大事故防止に努める。
 - ① ヒヤリハットの収集や事故の分析、共有を行うことで、生活環境におけるリスクを洗い出し、防止策を講じる。
- 2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営
 - (1) 入居者の状況を把握し、稼働率の安定化に努める。
 - ① 稼働率目標を99%とする。
 - ② 定期的な広報活動によって関係機関との関係構築に努め、待機者を常時2名以上確保することで、迅速な入退居調整に繋げる。
 - ③ 利用者の状態把握に努め、病状悪化に対する対応を早期に行うことで、稼働率の安定化に努める。
 - (2) 収支の安定化と生産性向上に努める。
 - ① 収支状況の把握と業務の見直しを行い、不必要な支出や業務を削減することで、収支の安定化と生産性向上に努める。
- 3 危機管理体制の強化
 - (1) 非常災害時、適切且つ迅速な行動が行えるよう、BCPに基づく実践的な訓練を実施する。
 - (2) 地域の活動や防災訓練に参加し、顔なじみの関係を築くことで、防災・防犯に関する協力体制の強化に努める。

特定相談支援事業所 のぞみ

年度目標

- 1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービスの提供に取り組む、4大目標の達成を目指す
 - (1) 関係機関等と情報共有し、臨機応変なサービス調整に努める。
 - (2) 意思決定支援に基づいた、利用計画を作成する。
 - (3) 相談支援専門員を育成する。
- 2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営
 - (1) 会議や研修等に参加することで、行政機関や地域との連携を図る。
 - (2) 関係事業所と連携し、定期的な訪問とサービス調整を行う。
 - (3) 書類整理・整頓を行い、行政提出物の管理等をしっかりと行って、堅実かつ効率的な業務遂行に努める。
- 3 防災体制の強化
 - (1) 非常災害時に関係機関と連携し、利用者の安否確認に努める。
 - (2) BCPに基づく実践的な訓練を年4回以上実施する。

共同生活援助 オレンジハウス

年度目標

1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービスの提供に取り組む、4大目標の達成を目指す

- (1) 職員の資質向上を図り、利用者の視点に立った支援に努める。
 - ① 専門的知識習得の為、研修会に年5回以上参加する。
 - ② 気づきの視点を持ち、ヒヤリハット報告を活用した事故防止に努める。
 - ③ 利用者の意向、適正、障害特性等を踏まえた個別支援計画を作成するとともに、サービス内容について随時検討し、利用者が安心して生活できるよう支援する。
 - ④ 居室点検の充実化を図り、利用者の安全確保と生活環境の維持に努める。

2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営

- (1) 目標稼働率を90%以上とし、安定した事業運営を行う。
 - ① 利用者の日中活動先や職場への連絡・訪問を実施し、環境面や対人関係等を中心とした利用者に寄り添った支援を行う。
 - ② 業務の進捗状況確認と見直しを行い、職員の意思統一と業務効率化を図る。
 - ③ 収支状況の把握と分析を行い、経営意識を高めながら、堅実な事業運営に努める。
- (2) 働きやすい職場環境を整え、職員の定着に努める。
 - ① 年次有給休暇計画を立て、年間5日以上の有給休暇を取得する。
 - ② Web研修を取り入れ効率化を図り、学びやすい職場環境を整える。

3 危機管理体制の強化

- (1) 防災・防犯対策の充実と住環境の整備を行う。
 - ① BCPに基づく実践的な訓練を年4回以上実施する。
 - ② 利用者の身の安全を守る為に、施設内の防犯備品等の整備を行う。
 - ③ 防災自主点検表に基づき、事業所内外の安全点検を実施する。

維新工房きらり

年度目標

1 プロフェッショナルな人材育成とデータに基づく質の高いサービスの提供に取り組む、4大目標の達成を目指す

- (1) 職員の知識や技術を高め、利用者の特性を踏まえた質の高い支援が出来るように努める。
 - ① 利用者の特性に応じた言葉がけや関わりを行い、モチベーションを高めながら利用者が作業に取り組めるよう支援する。
 - ② 個別支援検討会で日々のケース記録を基に計画を見直し、職員間で情報共有を行いながら支援の質の向上に努める。
 - ③ 作業評価表を用いて利用者の作業能力を評価し、抽出された課題や問題点の解決に一緒に取り組むことで、利用者のスキルアップを目指す。
- (2) 人材育成に努め、障害者支援の専門性向上を図る。
 - ① 障害者の就労支援に関する研修に参加する。
 - ② 相談支援専門員研修、サービス管理責任者研修を段階的に受講し、有資格者を育成する。

2 運営目標の明確化と生産性の向上による堅実かつ効率的な事業運営

- (1) 見学や実習受け入れを行い、安定的な利用者確保に取り組む。
 - ① 相談支援事業所や特別支援学校、職業訓練校等との連携を密に図りながら、実習生が安心して作業に取り組めるよう支援する。
 - ② 利用者がいつでも相談できる体制を整え、利用者の要求に真摯に対応することで、利用率90%以上を目指す。
- (2) 適正な経費区分による予算編成を行って、適切な事業運営に努める。
- (3) ヒヤリハット報告を活用し、重大事故防止だけでなく、職場環境改善に繋がる課題を抽出し、業務の効率化に努める。

3 危機管理体制の強化

- (1) 防災訓練の年間計画に従って、実践的な訓練を行う。
- (2) 積極的な挨拶や、交通マナーに気を配るなど、地域との繋がりを意識した関わりを通して、協力関係の構築に努める。
- (3) 機器点検や物品の管理のほか、事業所周辺の見回りや環境整備を行って、防災・防犯に取り組む。

総合福祉ゾーン キセキレイの里

- ・ 総合福祉ゾーンキセキレイの里 ……P44
- ・ 養護老人ホーム清香園 ……P45
- ・ デイサービスセンターアザレア ……P46
- ・ デイサービスセンターりんどう ……P47
- ・ 認知症デイサービスセンターいおき ……P48
- ・ ケアハウスせいらん ……P49
- ・ グループホームあい ……P50
- ・ グループホームびわの里 ……P51
- ・ グループホームくすのきの里 ……P52

総合福祉ゾーン キセキレイの里

基本方針

キセキレイの里では、質の高いサービスを提供するため、職員教育に注力し、4 大目標の達成に向けて積極的に取り組めます。また安定した事業運営のため、利用者、家族、地域の方々に必要とされる施設を目指します。

非常災害への取組みとして、防災対策を強化し、危機管理体制を継続的に見直すことで自然災害対策の強化に取り組めます。

年度目標

- 1 4 大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。

養護老人ホーム 清香園

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) リスクマネジメント力を強化し、事故防止に努める。
 - ① 利用者の状態に応じた環境整備や福祉用具の選定、介助方法の再検討を徹底し、事故防止に努める。
 - (2) 感染症対策を推進し、感染症予防に努める。
 - ① 地域の感染状況を把握し、感染症蔓延防止のため有効な対策を講じる。
 - (3) 計画的に人材を育成する。
 - ① 各種マニュアルに沿った指導を徹底し、介護現場における基本的な技術・技能の確実な習得を目指す。
 - (4) 口腔ケアの推進に努め、誤嚥性肺炎「ゼロ」を目指す。
 - ① 歯科健診及び口腔ケア指導を徹底し、口腔トラブルを防止する。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 地域及び行政との連携を密にし、養護老人ホームの役割を果たす。
 - ① 定期的に行政機関や医療機関等を訪問し、地域のニーズ収集と情報発信を積極的に行い、待機者を確保することで稼働率95%を目指す。
 - (2) 運営目標を定め、職員の経営意識を向上させる。
 - ① 職員一人ひとりの経営意識を高め、毎月の運営会議において、収支状況を的確に把握し、迅速に対策を講じる。
 - (3) 生産性を高めるための取組みを推進する。
 - ① 業務内容を可視化し、職員の意見を取り入れ業務を見直す。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 行政機関や地域住民と密に連携し、非常事態への対応力を高める。
 - ① 地域の防災訓練や福祉避難所の開設訓練へ積極的に参加し、施設が果たすべき社会的役割を再確認し、非常災害に備える。
 - (2) 事業継続を念頭に置き、防災意識の向上を図る。
 - ① 実践的な避難訓練にて、対応手順の周知徹底を図り、利用者の安全確保を最優先とした防災体制の強化に努める。
 - ② 防災に関する研修を通じて職員の対応力向上を図る。

デイサービスセンター アザレア

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) リスクマネジメント力を強化し事故防止に努める。
 - ① アセスメント力を高め、利用者個々の状態を的確に把握し、事故を予測する。
 - ② ヒヤリハット報告を活用し、職員全体で事故への関心を高め、事故防止へ
 - (2) 職員の資質向上と人材育成に取り組む。
 - ① 実務経験、資格等考慮し、個々の目標を設定し、必要な研修に参加する。
 - (3) 利用者が「行きたい場所」になるよう楽しみや安心感を提供する。
 - ① 利用者個々に応じた個別活動を提供する。
 - ② 利用者のニーズを把握し、季節に応じた行事を企画する。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 運営に関する意識を向上させる。
 - ① 目標稼働率 99%以上を目指す。
 - ② 収支の状況を把握し、職員間で情報共有や対策を講じる。
 - (2) 業務の効率化を図る。
 - ① 業務での問題点を洗い出し、非効率的な業務の見直しを図る。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 計画に基づいた訓練を実施することで職員の防災意識を高める。
 - ① 防災マニュアル・BCPを定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。
 - ② 防災に関する研修に参加し、防災知識や有事の対応方法を習得する。
 - ③ 防災訓練を通して、実践力の向上を図る。

デイサービスセンター りんどう

年度目標

1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。

(1) リスクマネジメント力を高め事故を未然に防止する。

① ヒヤリハット報告書を活用することにて危険予測、早期予防策を行い、重大事故予防に繋げる。

② 事故原因について分析し、再発防止に努める。

(2) 職員の知識、技術、倫理観を高める。

① 認知症の理解を深めるために、認知症研修への参加を積極的に行う。

② 職員の役割分担を明確化し、責任感や自己成長を促す。

③ 定期的な個別面談にて、振り返りや評価を行い、目標を明確化する。

(3) 利用者が日自らの有する能力を発揮し、活動的に過ごせるように支援する。

① 日常生活動作において、状態に応じた自立支援を促す。

② 利用者個々に応じた個別活動を提供する。

③ 季節感を感じ、利用者が楽しめるレクリエーションや行事を企画・実行する。

2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。

(1) 安定した事業運営に取り組む。

① 目標稼働率 97%以上を目指す。

② 担当者会議等にて情報収集、交換を行い、利用率の安定化に繋げる。

③ 毎月の収支状況を分析し、必要な対応を講じる。

(2) 業務内容を見直し、業務の効率化を図る。

① 業務の洗い出しを行い、無駄を省き、業務手順を統一することで職員の負担軽減を図る。

3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。

(1) 地域と連携した防災対策強化を図る。

① 地域との防災訓練に参加し、役割を理解し災害時に備える。

② 防災訓練を通して、災害時の避難行動を各職員へ周知する。

認知症デイサービスセンターいおき

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 職員教育を充実させ、良質なサービスが提供できる人材を育成する。
 - ① 経験年数や資格等に応じ、必要な研修へ参加することで、実践力を向上させる。
 - ② 適切な口腔ケアの実施及び指導者確保のため、1名以上の口腔ケア推進士の資格取得を目指す。
 - (2) 専門的なサービスを提供できるよう認知症ケア力を強化する。
 - ① 認知症ケアへの理解を深めるため外部研修へ参加し、伝達講習を行う。
 - ② 個々の認知症状について、職員間で情報共有し、統一された適切なケアを実施する。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 稼働率 97%以上の安定した事業運営に努める。
 - ① 毎月の収支状況を分析し、対策を講じる。
 - ② 利用者の日々の心身機能の把握、担当者会議等にて多職種と情報共有することで、利用率の安定を図る。
 - (2) 業務の効率化を図る。
 - ① 業務内容の洗い出しを行い、非効率な業務の見直しを進める。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 計画に基づいた訓練を実施し、職員の防災意識や体制を強化する。
 - ① 研修や訓練を通して災害時の役割分担を職員に周知し、実践力を身につける。
 - ② 定期的に防災マニュアルやBCPの見直しを図る。

ケアハウス せいらん

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 利用者個々に応じたサービスを提供する。
 - ① 多職種と情報共有し、利用者の状態把握と個別ケアに繋げる。
 - ② 月1回以上のカンファレンス・担当者会を実施する。
 - ③ 利用者の体調管理を行い、異常の早期発見・早期対応に努める。
 - (2) 職員の知識、技術向上に努める。
 - ① 職員個々で年2回以上、施設内外での研修に参加し、専門的な知識・技術習得に努める。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 目標稼働率99%を目指す。
 - ① 医療・行政機関、居宅介護支援事業所等を中心に月70件以上の広報活動を実施する。
 - ② 広報活動で空床・待機者状況や法人での取り組みを周知し、常時1名以上の待機者を確保する。
 - (2) 働きやすい職場環境を構築する。
 - ① 計画的に有給休暇を取得し、職員のリフレッシュを図る。
 - ② 気軽に意見や相談ができチームで助け合う環境作りに努める。
 - ③ 重複業務等の非効率的な業務内容を見直すことで職員の負担軽減を図る。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 地域及び行政との連携体制を確立する。
 - ① 年1回地域住民と合同で避難訓練を実施し、災害時の役割分担や対応方法を再確認する。
 - (2) 職員の防災意識を高める。
 - ① 訓練を通して、災害発生時の初動を迅速化し、利用者の安全確保を最優先とした防災体制の確立に努める。

グループホームあい

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 多職種連携とデータ活用により、根拠に基づいた安全で質の高いケアを提供する。
 - ① リスクマネジメント体制を活用し、ヒヤリハット・事故データの分析結果をケアに反映させ事故予防に努める。
 - ② 理学療法士、栄養士等と連携した内容をケアプランに追加し、専門性の高い自立支援ケアを提供する。
 - (2) 研修体系の充実により、職員のスキルアップと倫理観の醸成を図る。
 - ① 虐待防止や身体拘束廃止等の研修を年2回以上開催し、専門職としての倫理観と認知症ケアの実践力を高める。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 平均稼働率99%以上を維持し、安定的かつ効率的な運営を行う。
 - ① 常時4名以上の待機者確保に努め、退居時の空床期間を短縮する。
 - ② 広報活動を月20件以上行い、地域のニーズ把握と関係機関との連携強化に努める。
 - (2) 生産性を高める取り組みを推進し、働きやすい職場環境づくりを行う。
 - ① 4S活動を推進し、適切な書類管理及び業務の効率化を図る。
 - ② 生産性向上に向け、重複業務や非効率な業務の見直しを進める。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 事業継続計画に基づいた対策を行い、災害対応能力の向上を目指す。
 - ① 事業所の立地や夜間帯等を想定した実践的な避難訓練を実施し、災害時の行動や対応を周知する。
 - (2) マニュアルの見直し、備品整備を通じて防災危機管理対策を充実させる。
 - ① 訓練を通じて、実用的なマニュアルを整備する。
 - ② 備蓄品の管理、防災用品の点検・管理を実施する。

グループホームびわの里

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 職員の多様な専門性や強みを活かしたサービス提供に努める。
 - ① ヒヤリ・ハット報告を多角的に分析し、多職種連携で事故防止対策を講じ、職員に周知することで重大事故を防止する。
 - ② 口腔ケア推進士を中心に、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎を防止する。
 - ③ 個々のスキルや能力に応じた、必要な研修への参加と自己研鑽による資格取得を推進し、専門性を高める。
 - ④ ノーリフティングケアを定着させ、職員の腰痛予防と利用者の二次的障害を防止する。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 平均稼働率 99%以上を目指し、安定した事業運営に繋げる。
 - ① 月 20 件以上を目標に広報活動を実施し、待機者を 3 名以上確保する。
 - ② 関係機関と連携を図り、入退居をスムーズに行える体制を確保する。
 - (2) 風通しの良い、働きやすい職場環境を整備する。
 - ① 計画的に年 5 日以上の有給休暇を取得する。
 - ② 定期的な職員面談で意見を聴取し、課題について早期に対応する。
 - (3) 生産性を高めるための取り組みを推進する。
 - ① 業務内容を可視化し、無駄を省くことで業務の効率化を図る。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 事業所の特徴を理解し災害状況を想定した実践的な訓練を実施する。
 - ① 防災・感染症訓練の結果を BCP やマニュアルにフィードバックする。
 - ② 備蓄品や防災用品を定期的に点検し、適切に管理する。
 - (2) 地域住民と災害時における共助の関係を構築する。
 - ① 地域で開催される行事や避難訓練に参加し、地域との関わりを深め、災害時に相互に協力し合える関係を築く。

グループホームくすのきの里

年度目標

- 1 4大目標を推進することで、専門性と倫理観を備えた職員を育成し、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 多職種協同でアセスメントを行い、利用者個々に応じたケアを実施する。
 - ① 月10件以上ヒヤリ・ハット報告書を提出し、職員のリスクに関する意識を高め、早期に対策を講じることで重大事故を防止する。
 - ② 職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得及び向上を目指し、1名以上口腔ケア推進士の資格を取得する。
 - ③ 安心・安全なケアを実現するため、福祉機器を積極的に導入する。
 - (2) 専門性を発揮し、利用者の健康管理に努める。
 - ① 日々の体調・栄養状態を把握し、病状の早期発見・早期対応を行う。
 - ② 適切なケアと清潔な衛生状態を保ち、誤嚥性肺炎や感染症を予防する。
- 2 経営意識向上のため、運営目標を掲げ、進捗状況を管理することで安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 年間平均稼働率99%以上を維持する。
 - ① 事前面接・家族説明を迅速に行うことで、スムーズな入居に繋げる。
 - ② 広報活動で施設での取り組みを幅広く発信し、待機者を確保する。
 - (2) 生産性向上に向けた取り組みを推進し、業務の効率化を図る。
 - ① 職員から業務に関する意見を聴取し、業務改善を行うことにより、職員の負担軽減を図る。
- 3 非常災害に備え、防災対策を見直し、災害時の事業継続体制を強化する。
 - (1) 地域社会との繋がりを重視した取り組みを行う。
 - ① 地域住民参加型の総合避難訓練実施や地域の清掃活動等へ積極的に参加し、協力し合える関係性を構築する。
 - ② 運営推進会議にて防災等に関する事業所の現状やリスクを発信することで地域との相互理解を深める。
 - (2) 自然災害に備えた取り組みの強化を図る。
 - ① マニュアルやBCPを職員に周知し、より実践的な防災訓練を実施する。
 - ② 備蓄食料や物品の点検・管理を実施する。

総合福祉ゾーン

もとかかの里

- ・ 総合福祉ゾーンもとかかの里 ……P54
- ・ ユニット型特別養護老人ホーム
もとかか ……P55
- ・ ケアプランセンターもとかか ……P56
- ・ グループホーム ひのきの里 ……P57
- ・ 認知症デイサービスセンターひのきの里
……………P58
- ・ グループホーム やまざくらの里 ……P59
- ・ グループホーム あさぎり四万十の里……P60
- ・ グループホーム かづらしま ……P61
- ・ グループホームななつかたばみ ……P62
- ・ グループホームゆうき ……P63

総合福祉ゾーンもとかの里

基本方針

総合福祉ゾーンもとかの里は、地域のニーズを把握し、柔軟に対応することで社会資源としての役割を果たし安定した事業運営を目指します。また、利用者に質の高いサービスが提供できるよう生産性の向上を図り、取り組んでいきます。

危機管理体制としては、自然災害に備え、災害時の対応や事業継続に向け実践的な訓練を実施し防災対策の構築を図ります。

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。

ユニット型特別養護老人ホームもとか

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、チームケアによる質の高いサービスを提供する。
 - ① 多職種で報告・連絡・相談を密に行い、個別ケアの充実と統一したケアを提供する。
 - ② 入居者の心身状態を把握し、リスクを予測し事故防止対策や損害軽減策を迅速に導入し事故防止に努める。
 - ③ OJT と OFF-JT を組み合わせ、職員の資質向上を図ると共に外国人職員の日本語能力や介護の専門知識・技術の向上を図る。
 - (2) 生産性の向上等を通じた働きやすい職場環境づくりに取り組む。
 - ① 業務の課題を把握し、継続的に業務改善に取り組み生産性向上を図る。(3ヶ月に1回)
 - ② ノーリフトケアを推進し職員、利用者双方に負荷の少ない職場環境作りに取り組む。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 収支状況を把握し、安定した事業運営に取り組む。
 - ① 入所調整を円滑に行い、入所稼働率 98%以上、ショートステイ稼働率 90%以上を目指す。
 - ② 継続的に広報活動を行い、関係機関と馴染みの関係性を構築し、困難事例や緊急事案など、地域のニーズに柔軟に対応する。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 日頃より有事に備え、自然災害時に事業継続が行えるよう防災意識の向上を図る。
 - ① 事業継続計画（BCP）に沿った、訓練の実施。(年2回)
 - ② 地震・津波・火災時を想定した実践的な訓練を実施し、関係事業所や地域との連携を強化する。(2ヶ月から4ヶ月に1回)
 - ③ 地域の防災訓練に参加し、地域との連携や福祉避難所の役割を果たす。

ケアプランセンターもとちか

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 職員個々の専門性及び資質の向上を目的とし、外部研修等への参加を推進する。(年2回以上)
 - (2) 居宅サービスにおけるチームケアの要として、多職種と情報共有を密に行い、必要な情報発信に努める。
 - (3) 利用者が安定した生活が継続できるよう、心身状態や生活環境の変化が生じた際には、速やかに環境の見直しやサービス調整を行う。
 - (4) 定期的に住環境の確認を行い、安全かつ安心して生活できる環境整備に取り組む。
 - (5) 計画的に業務の効率化に向けた検討を行い、継続的に業務上の課題解決について取り組む。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 利用者一人ひとりの状況に応じ、必要なサービスが柔軟に提供できるよう関係機関との調整を行う。
 - (2) 職員個々がサービス提供実績や利用状況を的確に把握し、経営意識の向上が図れるよう努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 災害発生時に職員が自立して適切な行動がとれるよう、定期的に訓練を実施し、実践的な対応能力の向上を図る。
 - (2) 事業継続計画（BCP）に沿った、訓練に参加する（年2回）
 - (3) 訪問先等で被災した場合に備え、訪問先における避難マニュアル等の理解を深める。
 - (4) 地域の会合等へ積極的に参加し、行政機関や他事業所との「顔の見える関係づくり」に努める。

グループホームひのきの里

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 働きやすい職場をつくる。
 - ① 職場の人間関係や職員のメンタルケア、物理的環境の改善により働く意欲が向上するよう努める。
 - ② 資格取得や研修に参加することで、スキルアップを図る。
 - (2) チームケアの質の向上に取り組む。
 - ① 入居者に、正確・柔軟・共感・安心・好印象なサービスを提供する。
 - ② ケアプランに基づいた、統一したケアを提供する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率 99%以上を目標とし、安定した収入維持と経費節減に努める。
 - ① 待機者を 5 名以上確保し、早期な入居ができるように努める。
 - ② 業務改善を推進し、時間外勤務が減少するように努める。
 - ③ 職員全員が経費節減について意識し無駄を無くす。
 - (2) 地域の社会資源としての役割を果たす。
 - ① 地域活動に参加することで、社会福祉法人として地域貢献をする。
 - ② 関連機関と連携し、相談できる場所となるよう努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 緊急時や非常災害時、感染症発生時に対応できる体制を整える。
 - ① 多様な自然災害を想定し、より実践的な訓練を実施する。
 - ② 防災用品、保存食品等の管理を行い、災害時に備える。（年 3 回）
 - ③ 事業継続計画訓練（BCP）を実施し、災害発生に早期に業務復旧ができるように努める。
 - (2) 地域と連携を図り、支援活動の協力依頼ができる関係性を構築する。
 - ① 事業所の防災訓練への参加依頼や地域防災活動へ参加し地域との交流を深める。
 - ② 行政、地域主催の自主防災活動に参加し、防災力を高める。

認知症デイサービスセンター ひのきの里

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) チームケアによる質の高いサービスを提供する。
 - ① 法人内外の研修に参加することで専門的な知識や技術を高め、職員のスキルアップに繋げ質の高いケアを提供する。
 - ② 多職種と連携し、情報共有を行うことで、利用者一人ひとりに応じたサービスが提供できるよう努める。
 - (2) 業務改善に取り組み、生産性の向上を図る。
 - ① 業務内容を定期的に見直し、ムリ・ムダ・ムラを無くす。(3ヶ月に1回)
 - ② 情報共有の効率化を図ることで職員同士の関係性を構築し職場環境を整える。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 利用稼働率 75%以上を目標とする。
 - ① 利用者及び家族の状況を把握し、ニーズに応じたサービス提供や提案をすることで在宅生活の継続と利用者の定着が図れるよう努める。
 - ② 関係機関との連携を密に行い新規利用者の確保に努める。
 - (2) 経費の見直しを定期的に行う。(毎月)
 - ① 職員一人ひとりがコスト意識を持ち経費削減に取り組む。
 - ② 備品や設備を大切に使用し、修繕費の削減に努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 防災対策及び事業継続への取り組みを行う。
 - ① 防災マニュアルの確認及び見直しを行うことにて非常時に備える。
 - ② 計画的に防災訓練を実施し、災害時の意識や実践力向上を図る。
 - ③ 非常災害時の送迎マニュアルやルートを定期的を確認する。(毎月)

グループホーム やまざくらの里

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 働きやすい職場環境をつくる。
 - ① 全職員が立場や年齢に関係なく、意見を言える職場環境を作る。
 - ② 職員個々に職場内での担当を決める事で責任感を持たせ、意欲向上に繋げていく。
 - ③ 職員個々のキャリアに応じた資格取得、研修への参加を推進し職員のスキルアップを図る。
 - ④ 業務内容に無駄がないように適宜業務の見直しをする。(3ヶ月に1回)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入を確保する。
 - ① 入居稼働率 99%以上を目指す。
 - ② 適宜、介護度の見直しを行い、適正な介護度となるように区分変更を行う。
 - ③ 常に待機者 5 名を確保することで、迅速に入居調整が行えるようにする。
 - (2) 経費の削減に努める。
 - ① 適正な空調管理や節水、節電を心掛け光熱費の削減に繋げる。
 - ② 物品を大切にすることで不要な支出をなくし、経費削減に努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるように取り組む。
 - (1) 事業継続計画（BCP）に基づいた実践的な訓練を実施する。
 - ① ローリングストック方式にて備蓄食品や防災備品の管理を行う。
 - ② 適宜、訓練の見直しを行い実践的な訓練になるよう取り組む。
 - (2) 地域住民や関係機関との連携の構築に努める。
 - ① 地域の避難訓練に積極的に参加する。
 - ② 事業所の避難訓練の際には、近隣住民に参加の依頼をする。

グループホーム あさぎり四万十の里

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービスを提供する。
 - ① ヒヤリ・ハットを活用し分析・対策を行い、事故防止に努める。
 - ② 多職種と連携を図りチームケアを実践する事でサービスの質が向上するように取り組む。
 - ③ OJT と OFF-JT を組み合わせ、職員の資質向上を図ると共に外国人職員の日本語能力や介護の専門知識・技術の向上を図る。
 - (2) 働きやすい職場環境作りを行い職員の意識向上に努める。
 - ① 資格取得に向けたバックアップ体制を構築する。
 - ② 事業所内・外への研修に参加する機会を作る。
 - ③ 業務改善により生産性向上を図り職員の負担が軽減するよう努める。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入を確保し、事業運営を維持する。
 - ① 広報活動月20件以上を維持し、地域のニーズを把握する。
 - ② 職員一人一人が稼働率を意識し、入居稼働率99%以上を目指す。
 - (2) 経費節減に取り組み支出を抑える。
 - ① 消耗品等の在庫管理を徹底し、過剰在庫を無くし経費削減に繋げる。
 - ② 水光熱費削減のため、節水や節電、空調機器の温度管理を行う。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 自然災害発生時における事業継続計画（BCP）に基づいた訓練の実施
 - ① 事業所が置かれている自然災害のリスクを把握し対策を講じる。
 - ② 事業継続計画（BCP）に沿った実践的な訓練を行う。
 - (2) 災害時に地域と連携が図れるよう関係性の構築に努める。
 - ① 運営推進会議等を活用し地域や行政に協力を働きかける。
 - ② 地域の行事等に参加し馴染みの関係作りに取り組む。

グループホームかづらしま

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 働き甲斐を感じることができる職場環境を目指す。
 - ① 職員間や管理者に相談しやすく、風通しの良い関係を構築する。
 - ② 職員個々が専門職としての知識や技術を習得できるよう、研修参加や資格取得に向け環境を整え、人材育成及び職員の定着に繋げる。
 - ③ OJT や OFF-JT を実施し、職員が外国人職員に対して知識・技術を指導する事で相互的な成長に繋げる。
 - ④ 有給休暇を取得し、心身ともにリフレッシュして職員が健康で勤めることが出来る体制をつくる。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率 99%以上を目指し、安定した事業運営に努める。
 - ① 専門職と連携を図り、入居者の体調管理、事故予防に努める。
 - ② 毎月広報活動を 20 件以上行い、常に待機者 5 名を確保する。
 - (2) 無駄を省き、支出削減に努める。
 - ① 無駄を無くし、水光熱費の削減に努める。
 - ② 必要、不必要を定期的に見直し、業務改善や備品管理を行う。
 - (3) 5S 活動を徹底し業務改善に取り組む。
 - ① 業務内容や役割分担を定期的に見直し、業務フローを可視化し、誰もが、同じ作業をできるようにする。(3 ヶ月に 1 回)
 - ② 日々、清掃や整理整頓を行い、入居者や職員、訪れる誰もが気持ち良く過ごせるよう、清潔で快適な空間作りに努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるように取り組む。
 - (1) 災害時に備えて計画的に実践的な訓練を実施する。
 - ① 事業継続計画（BCP）を基に訓練を実施し、自然災害や感染症発生時に迅速に行動できるように努める。
 - ② 災害時に必要な備品について、いざという時に不足がないよう、年 3 回定期的に点検し整備を行い非常災害に備える。

グループホームななつかたばみ

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、事故件数の減少を目指す。
 - ① 研修（リスクマネジメント）への参加やヒヤリ・ハットの内容を分析し、予防策を提案できるように取り組み、知識や意識の向上に努める。
 - ② 事故防止の為に物品を整備し、居室環境の見直しを定期的に行う。
 - (2) 介護の目的や認知症ケアについて啓発し、基本的な介護力の向上を目指す。
 - ① ケアについて職員同士で意見交換をする場を作り、一人一人が意識を持ってサービスが提供できるよう努める。
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 業務における課題を分析し、見直しを行う（3ヶ月に1回）
 - ② 業務を可視化し、効率を考えた業務フローを作成することで、質の高いケアが行えるよう取り組む。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率 99%以上を目指す。
 - ① 常に待機者 5 名以上を確保し、入居がスムーズに行えるよう努める。
 - ② 入居者の心身状態の把握を行い、早期に主治医や医療機関と連携を図ることで継続して事業所で生活が送れるように努める。
 - (2) コスト管理や部品のメンテナンスを行い経費節減に努める。
 - ① 備品のメンテナンスを定期的に行い修繕費の削減に努める。
 - ② 経費節減について、職員個々の意識づけを行い節水、節電に努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 非常災害時に迅速に行動ができるよう取り組む。
 - ① 自然災害に備え事業継続計画（BCP）を踏まえた実践的な訓練を定期的に行う。（2ヶ月から4ヶ月に1回）
 - ② 関係事業所や地域との連携の強化を図る。
 - ③ 防災備品の整備や点検を行い非常災害時に備える。（年2回）

グループホーム ゆうき

年度目標

- 1 働きやすい職場環境を推進し、職員の定着と人材育成を行い、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 生産性向上について意識した運営を行う。
 - ① 事業所内の無駄を抽出し、入居者と楽しむ時間を増やす。
 - ② 毎月の職員会で業務の見直しや改善を行う。
 - (2) データに基づくリスク管理を多職種と連携し、事故予防対策の向上に努める。
 - ① 環境や福祉用具を定期的に見直す。(月 1 回)
 - ② 気づく力、話し合う習慣をつけ、職員の事故防止に対する意識を高める。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率を維持し安定した収入を確保する。
 - ① 入居稼働率 99%以上を目指す。
 - ② 広報活動を月 20 件以上行い、常に待機者を 5 名以上確保する。
 - (2) 収支を意識し無駄のない事業運営を行う。
 - ① 徹底した在庫管理を行い、消耗品等の過剰在庫を持たない。
 - ② 業務改善に取り組み時間外勤務等の人件費削減に努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え、事業所のある地域の実情に即した防災対策、事業継続が行えるよう取り組む。
 - (1) 自然災害についての防災対策
 - ① 自然災害発生時には事業継続計画（BCP）に添った行動がとれるように、地域の実情に応じた訓練を実践する。
 - ② 防災用品、備蓄品の管理を定期的に行い災害時に備える。(年 4 回)
 - (2) 地域との連携
 - ① 年 1 回の地域開催の防災訓練に参加し、防災、危機管理意識の向上に努める。
 - ② 災害時には、関係機関との連携を図り、協力を依頼する。

総合福祉ゾーン

天空の里

- ・ 総合福祉ゾーン天空の里 ……P65
- ・ 特別養護老人ホームそよ風 ……P66
- ・ 養護老人ホーム山吹 ……P67
- ・ ケアハウスさくら草 ……P68
- ・ 認知症デイサービスセンターかわせみ…P69
- ・ デイサービスセンターこまどり ……P70
- ・ グループホームふくじゅ草の里 ……P71

総合福祉ゾーン天空の里

基本方針

総合福祉ゾーン天空の里は、中山間地域の福祉拠点として、地域の期待に応え信頼される事業運営を目指します。

また、近年頻発している自然災害に備え、地域との連携強化を図るとともに、より実践に近い防災訓練を積み重ね、ゾーン全体の防災力の向上を図ります。

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求および、さらなる4大目標の推進に努めます。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます。

特別養護老人ホーム そよ風

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求および、さらなる4大目標の推進に努めます。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護技術の向上に努めます。
 - ① 多職種間でリアルタイムな情報共有を行い、ケア方法の統一、生活環境の見直し、福祉用具の積極的な活用により事故を未然に防ぎます。
 - ② OHAT を全利用者に実施し、個々の状態に基づいた専門的な口腔ケアを実施することで、誤嚥性肺炎を防止します。
 - ③ 定期的な職員会や勉強会を開催し、特に認知症ケアや看取り介護に関する知識・技術の研鑽に努め、ケアの質を底上げします。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
 - (1) 風通しのよい職場環境を構築し、業務の効率化を図ります。
 - ① 職場環境に関する意見を積極的に聴取し、迅速な改善措置を講じます。
 - ② 生産性向上委員会を通じて既存業務の精査を行い、ICT の活用やフローの見直しにより業務の効率化を実現します。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます。
 - (1) 地域福祉の現状を把握し、効率的で安定した事業運営につなげます。
 - ① 地域行事等へ積極的に参加し、地域の医療・福祉ニーズや資源の現状を正確に把握します。
 - ② 医療・福祉動向を踏まえた計画的な広報を実施し、施設の取り組みを広く周知することで、入所稼働率 99%、短期入所稼働率 90%を目指します。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます。
 - (1) 防災計画に沿った訓練を実施し、災害時の実践力を高めます。
 - ① 地域主催の防災訓練に参加し、近隣住民や関係機関との連携を深めます。
 - ② BCP のマニュアルを定期的に更新し、実効性の高い訓練を繰り返すことで、非常時においても事業を継続できる体制を整えます。

養護老人ホーム 山吹

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求及び、さらなる4大目標の推進に努めます。
 - (1) 満足度の高いサービスを提供する為、介護実践力の向上に取り組みます。
 - ① 年間研修計画に基づき、Web研修・内部研修・外部研修へ積極的に参加します。
 - ② 職員の能力や経験に応じた個別指導を随時行い、実践的なスキルの向上を図ります。
 - ③ 多職種協同で利用者アセスメントを実施し、ケアを統一します。
 - ④ 懇談会や個別聴取を通じてニーズを的確に把握し、行事や余暇活動の充実を図ります。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
 - (1) 業務の効率化を推進し、職員が働きやすい環境を整備します。
 - ① 職員個々の事情を把握し、各種休暇制度の利用を促進します。
 - ② 定期的な個別面談を通じて、職場環境への不安や悩みを吸い上げ、職場全体で改善策を話し合うことで、生産性の向上に繋がります。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます。
 - (1) 行政や協力病院と密に連携し、地域の福祉ニーズを把握します。
 - ① 地域の福祉ニーズを把握した上でサービスの質を高め、入所待機者の確保に努めます。
 - ② 利用者の病状を的確に把握し、異変の早期発見に努めます。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます
 - (1) 計画に基づいた訓練を行い、全職員の災害対応力を向上させます。
 - ① 本山町地域共生ネットワーク推進会「防災部会」に参加し、非常時の役割を相互確認することで、地域連携をより強固なものにします。
 - ② BCP マニュアルを定期的に見直し、不測の事態に備えます。

ケアハウス さくら草

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求および、さらなる4大目標の推進に努めます。
 - (1) 入居者個々に応じたケアの実践に取り組みます。
 - ① 入居者の日々の状態を把握し、多職種間で共有します。
 - ② OHATを実施し、適切な口腔ケアの支援により誤嚥性肺炎を予防します。
 - ③ 入居者の心身状態に沿った環境整備により事故を防止します。
 - (2) 職員の知識、技術の経験に応じた人材育成を推進します。
 - ① 研修への参加を促し資格取得や専門性を高めます。
 - ② 事業所内で研修内容を共有し知識、技術の向上に努めます。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
 - (1) 現場の課題を洗い出し分析して職員が働きやすい環境を整えます。
 - ① 職員間で積極的に意見交換し、気づきの目を養います。
 - ② 5S活動を実施し職場の環境整備に努めます。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます
 - (1) 各関係機関と絶え間なく連携を図り、安定した稼働率を目指します。
 - ① 広報活動を通して事業所の強みを発信します。
 - ② 広報で得た情報を分析すること、また、各事業所と共有し、待機者の確保に繋がります。
 - (2) 運営状況に対する意識の向上を図ります。
 - ① 収支状況を分析し、安定した事業運営に繋がります。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます。
 - (1) 災害時に迅速に動けるように防災訓練を重ねます。
 - ① マニュアルの周知徹底を図り防災に対しての意識向上に努めます。
 - ② 日頃から地域との交流に注力し、被災後の早期復旧を想定した体制構築に努めます。

認知症デイサービスセンター かわせみ

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求および、さらなる4大目標の推進に努めます。
 - (1) 職員の資質向上と人材育成に取り組みます。
 - ① 認知症実践者研修等を受講し、認知症に対する理解を深めます。
 - ② 職員間で報告・連絡・相談を徹底し、統一したケアを実践します。
 - (2) 利用者が安心して利用できるサービス提供の向上に取り組みます。
 - ① 個別活動やレクリエーションの内容を充実させ、心身機能の維持・向上に努めます。
 - ② 個々の身体機能や生活歴を多職種間で共有し事故防止に努めます。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
 - (1) 職員がやりがいを感じる職場環境作りに取り組みます。
 - ① 年5日以上の有給休暇を計画的に取得します。
 - ② 職場環境に関する意見を積極的に聴取し迅速な改善を講じます。
 - (2) 事業目標を明確に定め、進捗状況を把握し、目標達成に努めます。
 - ① 進捗状況一覧表を用いて進捗状況を把握します。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます。
 - (1) 利用者の健康管理に努め安定した利用に努めます。
 - ① 心身状態の観察と把握を行い、異常の早期発見に努めます。
 - ② 関係事業所と情報共有し、安定した生活ができるよう努めます。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます。
 - (1) 災害時に迅速に動けるように防災訓練を重ねます。
 - ① マニュアルの周知徹底を図り防災に対しての意識向上に努めます。
 - ② 日ごろから地域との交流を図り、被災後の早期復旧に向けた体制作りに努めます。

デイサービスセンターこまどり

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求および、さらなる4大目標の推進に努めます。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービスを提供します。
 - ① 利用者個々に応じたニーズを把握し、多職種にて専門性を生かしたアプローチにより事故防止に努めます。
 - ② OHATの結果を下に、適切な口腔ケアを実施し誤嚥性肺炎を予防します。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
 - (1) 職員が働きやすい職場環境の整備を行います。
 - ① 定期的な業務内容や業務分担の見直しを行い、業務の効率化に努めます。
 - ② コミュニケーションに重点を置き、皆が発言、提案しやすい環境をつくります。
 - ③ 年5日以上の有給休暇を計画的に取得します。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます。
 - (1) 稼働率を向上、安定した事業運営に努めます。
 - ① 月平均稼働率98%を目標とします。
 - ② 利用者の日々の心身状態を多職種間で共有し、異常時の早期発見に努めます。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます。
 - (1) 地域との関わりを深め、危機管理対策に備えます。
 - ① 非常災害時、迅速に対応できるようマニュアルの再確認、周知します。
 - ② 日頃から地域との交流に注力し、被災後の早期復旧を想定した体制構築に努めます。

グループホームふくじゅ草の里

年度目標

- 1 利用者満足度の高いサービスを提供する為に、職員の教育、指導を通じた専門性の追求および、さらなる4大目標の推進に努めます。
 - (1) 職員の安全意識への向上を推進します。
 - ① 事故要因やヒヤリハットの検証を徹底し、事前に危険を予測し対策を立てることができるように、研修への参加を促します。
 - ② 個別のニーズに応じた暮らしの保証を目指し、アセスメントの充実を図り、ケアプランに反映します。
- 2 現状分析と課題整理に基づき、業務の効率化による生産性向上を図り、職員の定着促進、新たな人材の確保に努めます。
 - (1) ノーリフティングケアの実践を推進します。
 - ① 福祉機器の導入を継続し、入居者職員双方に安楽な環境を整備します。
 - (2) 職員の働きがい向上に努めます。
 - ① 相談できる雰囲気づくりに努め、メンタル面でも安心できる環境整備を図ります。
- 3 医療・福祉制度の動向に注視し、地域福祉の担い手として安定した事業運営に努めます。
 - (1) 運営目標を明確化し、職員全体で達成に向けた取り組みの継続を行います。
 - ① 顔なじみの関係づくりに努め、地域と密着した広報活動を展開します。
 - ② 職員全体で健全な運営を理解し、稼働率99%以上の目標値の達成を目指します。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、防災力の向上、被災後の早期復旧を見越した危機管理対策の構築に努めます。
 - (1) 事業継続計画（BCP）の実践訓練、見直しを進めます。
 - ① 非常事態時でも迷わず的確な行動が取れるように実践力を高めた訓練を実行します。
 - ② 地域住民らの安全確保にも貢献できるように体制構築を図ります。

総合福祉ゾーン やだけの里

- ・ 総合福祉ゾーンやだけの里 ……P73
- ・ 特別養護老人ホーム矢野 ……P74
- ・ 小規模多機能型居宅介護響 ……P75
- ・ デイサービスセンター彩 ……P77
- ・ 居宅介護支援事業所蒼 ……P78

総合福祉ゾーン やだけの里

基本方針

総合福祉ゾーンやだけの里は、利用者や入居者が安心した生活が送れるよう、日々の健康管理や事故防止等、職員個々が知識や技術の向上を行い、より些細な変化に気づける質の高いサービス提供に努めます。

また、あらゆる災害に対する対策の強化や、地域住民との連携をより深め、地域に根ざした施設運営を行います。

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、職員個々が知識や技術の向上に努める。
- 2 各事業所が目標を数値化し、安定な事業運営を図る。
- 3 非常災害や感染症に対する対策強化に努める。
- 4 地域とのつながりを密にし、連携や体制を強化する。

特別養護老人ホーム 矢野

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、職員個々が知識や技術の向上に努める。
 - (1) 多職種が参加する会議やカンファレンスを通じて連携を強化し、各職員が課題を主体的に考え、発信・意見交換を行うことで、介護力の向上に努める。
 - (2) 計画に基づき、看取りや認知症、口腔ケア等の研修を実施する。
 - (3) ノーリフティングケアを推進し、入居者・職員の双方にとって安心・安全な介護を実践する。
 - (4) 事故発生後の速やかなカンファレンスによる再発防止と、骨密度測定や転倒リスクアセスメント、ヒヤリハットデータを活用したリスク把握に加え、生活環境の調整やヒッププロテクターの導入を通じて、事故予防体制の整備を図る。
 - (5) 口腔衛生等の管理を計画的に実施し、誤嚥性肺炎の予防に努める。
- 2 各事業所が目標を数値化し、安定な事業運営を図る。
 - (1) 計画的な広報活動を通して待機者を常時5名確保し、入所稼働率98%、ショートステイ稼働率90%の達成を目指す。
 - (2) 生産性向上委員会を中心に業務を見直し、無駄を削減し効率化を図ることで働きやすい職場づくりに努める。
- 3 非常災害や感染症に対する対策強化に努める。
 - (1) 避難訓練等を通じて職員一人ひとりが役割や行動の流れを理解するとともに、機器の計画的な保守点検や備蓄品・災害時持ち出し品の確認や補充を行い、災害への備えを強化する。
 - (2) 標準予防策（スタンダード・プリコーション）を徹底し、感染症を「持ち込まない・拡げない・持ち帰らない」よう努める。
- 4 地域とのつながりを密にし、連携や体制を強化する。
 - (1) 地域行事や認知症カフェへの参加、施設周辺の清掃活動等に積極的に取り組み、地域住民との顔の見える関係づくりを進めるとともに、施設の役割や取り組みを発信し、地域に開かれた施設運営を目指す。

小規模多機能居宅介護 響

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、職員個々が知識や技術の向上に努める。
 - (1) 利用者の転倒、骨折を予防し、安全な生活環境の維持に努める。
 - ① 利用者一人一人の心身の状態や生活動作を把握し福祉用具の活用や環境調整をする。
 - ② ヒヤリハットを活用することにより転倒リスクに対する情報共有を徹底し重大事故を防ぐ。
 - ③ 小多機の特性である柔軟な対応がより可能となるように、利用者の生活歴や思いを大切にしたい関りを心がけ、不安や混乱の軽減につながる支援を行う。
- 2 各事業所が目標を数値化し、安定な事業運営を図る。
 - (1) 登録定員 22 名、平均介護度 2.15 を下回らないよう安定した事業運営を行う。
 - ① 新規受け入れの際には、平均介護度を考慮し、適切なタイミングで区分変更やサービス内容の調整を図る。
 - ② 重度化に対応できるよう、退院後や状態変化時の受け入れについてゾーン内の各部署と連携し調整していく。
 - (2) 業務の効率化と経費の適正管理を行う
 - ① 業務手順の整理を行い効率的な業務遂行に努める。
 - ② 消耗品や在庫管理を見直し無駄のない使用を心掛ける。
- 3 非常災害や感染症に対する対策強化に努める。
 - (1) 非常災害時の体制強化
 - ① 利用者の生活状況や在宅環境も踏まえ、通い・訪問・泊りそれぞれの場面を想定した対応を確認する
 - ② 緊急時の連絡体制、避難場所等をご家族と共有する。
 - (2) 感染症の発生及び拡大防止に努める。
 - ① 標準予防策を徹底し利用者や職員が安心して過ごせる環境づくりに努める。
 - ② 体調不良者発生時には速やかに情報共有を行い、必要に応じて家族や医療機関と連携し早期対応を行う事で感染を最小限に抑えるよう努める。
- 4 地域との繋がりを密にし、連携や体制を強化する。
 - (1) 地域住民や各関係機関との繋がりを大切にし、継続的な連携体制を構築する。
 - ① 地域の各関係機関や地域住民と必要な情報共有を行い、利用者が住み

慣れた地域で安心して暮らせるよう支援する

- ② 積極的な地域活動への参加、ボランティアの受け入れを行う。

デイサービスセンター彩

年度目標

- 1 4大目標に向け、職員個々が知識や技術の向上に努める。
 - (1) 目標達成に向け職員の知識および技術の向上を図り、質の高いサービス提供に努める。
 - ① ゾーン内の各職種にも助言を受けケアの質を高める。
 - ② 認知症ケアに関する専門的知識及び技術の水準向上を図るため、外部や内部研修へ計画的に参加する。
 - ③ 利用者の身体状態、評価を活用したケアの実践により骨折事故の防止に努める。
 - ④ 適切な口腔ケア実施にて誤嚥性肺炎の予防に取り組む。
- 2 各事業所が目標を数値化し、安定な事業運営を図る
 - (1) 登録者数及び稼働率の向上を重点課題と置き、新規利用者獲得の強化を積極的に行い、事業の安定化を図る
 - ① 新規相談者や見学者を確実に利用に繋げる為、利用開始までの調整を迅速に行い、紹介後の対応力を高める
 - ② 年間行事の充実・サービスの質向上を通じ、利用者の満足度の向上と定着に繋げる。
 - ③ 利用中止・終了理由を把握し、状態変化に応じた内容の見直しやサービス改善を行い継続利用に繋げる。
- 3 非常災害や感染症に対する対策強化に努める。
 - (1) BCPを周知し訓練に参加することにて非常災害に備える。
 - ① 非常災害及び感染マニュアルの整備、見直しを行う。
 - ② 非常災害時の送迎ルート確認や周知を徹底する。
 - ③ 標準予防策を徹底し利用者や職員が安心して過ごせるよう環境整備する。
- 4 地域とのつながりを密にし、連携や体制を強化する。
 - (1) 地域との連携強化を行う。
 - ① 地域ボランティアや保育園と交流の機会を持つ。
 - ② 利用者の住む近隣住民とも信頼関係を構築するとともに、法人職員として自覚を持った運転マナーと挨拶を行う。

居宅介護支援事業所 蒼

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、職員個々が知識や技術の向上に努める。
 - (1) 誤嚥性肺炎、転倒・骨折等のリスクを予測したアセスメントを実施し、健康維持に特化した質の高いケアプランを立案する。
 - (2) 利用者の意思を尊重し、各サービス事業所の専門職と密に連携を図り在宅生活が継続できるよう支援する。
- 2 各事業所が運営目標を数値化し、安定的な事業運営を図る。
 - (1) 積極的な広報活動を行い、医療機関・関係機関との信頼関係を構築し、新規利用者の獲得に繋げる。
 - (2) 計画的に基づいた有給休暇の管理、取得を行う。
- 3 非常災害や感染症に対する対策強化に努める。
 - (1) 非常災害発生時における利用者の避難場所や対応手順について確認を行い周知徹底する。
 - (2) 職員が感染源とならないよう、日常的な感染予防策の徹底を行う。
- 4 地域とのつながりを密にし、連携や体制を強化する。
 - (1) 地域ケア会議や地域包括支援センター主催のミーティング等へ積極的に参加し、情報共有および連携強化を図る。

赤とんぼの里

- ・ 赤とんぼの里 ……P80
- ・ ケアハウスアゼリア（特定） ……P81
- ・ トマト指定通所介護センター ……P83
- ・ トマト指定居宅介護支援センター ……P85

赤とんぼの里

基本方針

明確な運営目標を設定することで、職員の経営意識を高め、生産性の向上に努めます。

また、データに基づく質の高いサービスの提供、職員個々のレベルに応じた人材育成に努め、利用者、家族、地域の皆様に信頼される事業所を目指します。

防災に関しては、香南会自然災害対応基本方針に基づき、ゾーンで一体的に取り組めます。

さらに、広報活動や実習生の受け入れ等を通じて、地域社会の福祉の充実・発展に貢献できるよう積極的に活動してまいります。

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
- 2 運営目標とその進捗状況を事業所間で共有し、目標を着実に達成する。
- 3 職員の勤怠管理、働きやすい職場環境の整備に努める。
- 4 BCPに基づいた災害対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
- 5 地域のネットワークに積極的に関わり、自らが地域資源となれるよう活動内容を発信する。

ケアハウスアゼリア（特定施設入居者生活介護）

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた、研修参加や資格取得を目指し、専門性を高める。
 - ① WEB研修を含め、内部、外部研修へ積極的に毎月1名以上の職員が参加出来るよう、計画を立て、専門的な知識、技術、資格の取得に努める。
 - ② 伝達講習をとおして、研修内容を職員間で共有する。
 - ③ ノーリフト推進会議へ参加する。
 - ④ 機器の試用貸出し制度を活用する。
 - (2) 根拠に基づいて事故対策を立て、再発防止に努める。
 - ① ヒヤリハットを毎月ひとり3枚以上提出する。
 - ② 発生した事故やヒヤリハットの背景要因を、人的要因、環境要因などの観点から多角的に分析する。
 - ③ ADLのピクトグラムを作成、適時更新し統一したケアを行う。
 - (3) 関わる職員全員から事前に情報収集することで、より具体的なアセスメントに繋げ、実現可能なケアプランを作成する。
- 2 運営目標とその進捗状況を事業所間で共有し、目標を着実に達成する。
 - (1) 生産性向上委員会を設置し、業務課題を抽出し、具体的な解決策を毎月検討する。
 - (2) 毎月の運営会議で事業進捗状況に対する評価と課題を明らかにし、今後の取り組みに繋げていくことで目標を達成する。
- 3 職員の勤怠管理、働きやすい職場環境の整備に努める。
 - (1) 各種休暇制度や年次有給休暇の取得を促進する。
 - ① 有休管理表に基づき、計画的に有給休暇を取得する。
 - ② 各種休暇制度を利用し、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境に繋げる。
 - (2) 超過勤務時間は、事前申請に基づいて管理し、法令遵守に努める。
- 4 BCPに基づいた災害対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) 年1回の自治会との合同避難訓練等を通じて、ハザードマップ、マニュアルを周知する。
 - (2) Garoon、InCircleを活用して、委員会活動内容や、災害時情報を共有周知する。

- 5 地域のネットワークに積極的に関わり、自らが地域資源となれるよう活動内容を発信する。
- (1) 広報活動をととして事業所の取り組みや特徴などを広く発信すると共に地域ニーズの把握に努め、常時2人以上の待機者確保に努める。
 - (2) 福祉施設への関心が高められるよう、職場体験、ソーシャルワーク実習を積極的に受け入れる。
 - (3) 龍野西圏域ケア会議等の地域で開催される情報共有の場に参加する。

トマト指定通所介護センター

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
 - (1) 職員の個々に応じた多様な研修に参加したり、資格を取得を目指しスキルアップに繋げる。
 - ① 個々のスキルに応じた研修（Web・内部研修・外部研修等）に年1回以上参加する。
 - ② 研修に参加した職員は伝達講習を行い、研修内容を職員間で共有する。
 - (2) 事故を未然に防ぐため、データに基づいた事故対策を行う。
 - ① ヒヤリ・ハットを1人1日1枚提出する事で気づきの目を養う。
 - ② 事故報告書に基づく、再発防止策を事業所内会議にて周知する。
 - ③ 危険箇所を未然に防ぐため、施設内の環境整備毎日行う。
 - (3) 利用者のアセスメントに基づき、ニーズに寄り添った通所計画書の作成を行う。
 - ① ケアマネジャーが開催する担当者会議に参加し、情報の共有を行う。
 - ② 利用者や家族から新たな情報を得られたときは、事業所会議やカンファレンスにて共有を行う。
- 2 運営目標とその進捗状況を事業所間で共有し、目標を着実に達成する。
 - (1) 業務の無駄を省き、生み出した時間を直接的なケアや利用者の満足度向上に充てる。
 - ① 「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）」の徹底や、申し送りの時間の短縮など、現場の「ムリ・ムダ」を表にして可視化し削減の意識づけをする。
 - ② 離職防止や職場環境の改善を図る為、職員の身体的・精神的負担軽減を図る為、半年に1度の評価時に個別面談し、相談しやすい職場環境の改善を図る。
 - (2) 運営会議での情報共有や問題提起を理解する。
 - ① 運営会議での情報を事業所内会議にて報告する。
 - ② 具体的な運営目標をたて、事業所間で情報の共有を行う。
 - ③ 新規利用者を年間15件獲得する。
- 3 職員の勤怠管理、働きやすい職場環境の整備に努める
 - (1) 職員全員の有給休暇取得100%を目指し、有給休暇計画に基づき勤務調整を行う。

- (2) 超過勤務時間の管理を行う。
 - ① 送迎ルートの見直しや業務内容の見直しを行う。
 - ② 毎日の利用者数に対して出勤職員数の調整を行う。
- 4 BCP に基づいた災害対策に平常時から危機意識を持って取り組む。
 - (1) 感染症・災害に関する研修に参加する。
 - ① 研修に参加できるよう勤務調整を行う。
 - ② 危機意識を持って訓練に参加する。
- 5 地域のネットワークに積極的に関わり、自らが地域資源となれるよう活動内容を発信する。
 - (1) 毎月の広報活動を行い、新規の介護支援事業所との繋がりを持つ。
 - (2) 併設事業所でのソーシャルワーク実習の受け入れや、「トライやるウィーク」（中学生による職業体験）を積極的に受け入れる。
 - (3) 圏域ケア会議や、ふれあいサロンへ参加し事業所のPRを行う。
 - ① 圏域ケア会議に参加し、事業所の活動内容を発信する。
 - ② 地域のふれあいサロンへ参加し地域の方との交流を深める。

トマト指定居宅介護支援センター

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
 - (1) 法人内やゾーン内で開催される内部研修や外部・Web研修に積極的に参加し、介護支援専門員としての専門知識や技術の向上に努める。
 - (2) 利用者の状態や取り巻く状況に関する情報をアセスメントし、アセスメントを通じて利用者の生活課題を明確化し、ケアプランの作成に努める。
- 2 運営目標とその進捗状況を事業所間で共有し、目標を着実に達成する。
 - (1) 毎月開催される運営会議に参加し、事業の進捗状況を確認するとともに、運営目標の達成に向けて問題提起に努める。
 - (2) 生産性向上委員会を設置し、各委員会のからの情報発信を受け活動内容を把握し、職員への周知に努める。
- 3 職員の勤怠管理、働きやすい職場環境の整備に努める。
 - (1) 各種休暇制度の取得促進に努める。また有給休暇の計画的取得に努める。
 - (2) 電子決裁システムを活用し、業務の効率化に努める。
- 4 BCPに基づいた災害対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) 自然災害や感染症のBCPの研修や訓練に参加することで、日頃から職員のリスクに対する意識の向上に努める。
 - (2) 平常の訪問時に、利用者に対して災害対策や感染防止の情報提供を行い、緊急時に備えた対策に努める。
- 5 地域のネットワークに積極的に関わり、自らが地域資源となれるよう活動内容を発信する。
 - (1) 広報活動を通じて事業所外部との連携を図ることで、地域における新たな地域ニーズの発見や社会資源の開発への貢献に努める。
 - (2) 龍野西園域ケア会議やふれあいサロンへ参加し、地域との連携を図ることで、地域に根差した事業所運営に努める。

特別養護老人ホーム 安寿の里

・ユニット型特別養護老人ホーム安寿の里 ……P87

ユニット型特別養護老人ホーム 安寿の里

基本方針

特別養護老人ホーム安寿の里は、利用者一人ひとりがその人らしく、安心して生活できるよう、家族や地域とのつながりを深めながら、喜びと意欲を持って暮らせる施設づくりを目指します。

年度目標

- 1 専門性に基づいた、質の高いサービスの提供を行う。
 - (1) 多職種と連携し、状態に応じた個別ケアの充実と課題分析を行い、福祉用具・生活環境の見直しを図ることで、安心・安全なサービスを提供する。
 - (2) 本人および家族の意向を尊重し、これまでの生活歴や価値観を踏まえた意思決定支援を行うとともに、多職種で連携しながら、安心して最期の時を迎えられるよう、その人らしい看取りケアの提供に努める。
 - (3) 施設内外で実施される認知症等に関する研修に定期的に参加し、専門的知識の習得および技術向上に努める。
- 2 運営目標を明確にし、経営基盤の安定を図る。
 - (1) 広報・営業活動を継続して行い、入居者および待機者の確保を図り、稼働率の安定に努める。広報件数は月 80 件以上、入所稼働率 98%、ショートステイ稼働率 80%を目標とする。
- 3 働きやすい職場環境の整備と人材確保に努める。
 - (1) 福利厚生の実施を図り、年 5 日以上の有給休暇取得を推進し、職員が安心して意欲的に働ける、働きがいのある職場環境の整備に努める。
 - (2) 会社説明会や求人誌の発行を継続し、安定した人材確保に努める。
- 4 実践的な防災訓練の実施と危機管理対策の推進を行う。
 - (1) BCP 等を踏まえた計画に基づき、地域と連携した実践的な訓練を実施し、自然災害や原子力災害に対する危機管理対策の推進を行う。

新居浜事業所

- ・ 新居浜事業所 ……P89
- ・ 小規模特別養護老人ホームつばき ……P90
- ・ グループホームけやきの里 ……P91
- ・ グループホームあかがね ……P92
- ・ グループホームしおさい ……P93

新居浜事業所

基本方針

新居浜事業所は、誰もが安心して生活できる地域づくりに貢献するため、安定した経営基盤のもと「優しい介護」を追求し、認知症支援や看取りケアを含む質の高いサービスを提供します。

また、生産性向上と職場環境の整備を通じて職員が誇りを持って働ける環境の構築を目指します。

危機管理対策においては、BCP（事業継続計画）に基づいた防災訓練やマニュアル整備を徹底し、災害や感染症から安全を確保する体制を強化してまいります。

年度目標

- 1 安定した基盤づくりと質の高いサービス提供。
- 2 運営効率の向上と安定した事業運営を目指す。
- 3 生産性向上と職場環境の整備を通じて、ケアに専念できる体制を整え、職員が働きやすい職場環境を構築する。
- 4 BCP に基づいた災害対策や感染症防止対策の強化を図る。

小規模特別養護老人ホームつばき

年度目標

- 1 安定した基盤づくりと質の高いサービス提供を図る。
 - (1) 優しさあふれる介護の提供
 - ①利用者一人ひとりの尊厳を大切にした個別ケアの実践。
 - ②職員間でのケア方針の共有と統一を図り、継続性のある支援を提供する。
 - ③接遇・倫理研修を通じた「思いやりのある対応力」の向上に努める。
 - (2) 認知症への理解促進と支援
 - ①認知症ケアに関する内部研修を年1回全職員対象に実施する。
 - ②家族との情報共有を密にし、安心感のある支援体制を構築する。
 - (3) 看取りケアの充実
 - ①多職種連携による看取りケアの体制を確立する。
 - ②利用者・家族の意向を尊重したケアプランの作成を行う。
- 2 運営目標を明確にし、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率の向上
 - ①稼働率 99%以上を目標とし、入退所管理の適正化と待機者情報の整理を行う。
 - ②医療機関・居宅介護支援事業所との連携を強化する。
 - (2) 地域連携の強化
 - ①地域行事や交流活動へ年2回以上の参加を実施する。
- 3 生産性向上と職場環境の整備を通じて、ケアに専念できる体制を整え、職員が働きやすい職場環境を構築する。
 - ①情報共有を円滑にし、業務効率化を図る。
 - ②相談しやすい職場風土づくりとチームケアの推進に努める。
- 4 BCP に基づいた災害対策や感染症防止対策の強化を図る。
 - (1) 定期的な防災訓練の実施
 - ①災害種別（地震・水害など）を想定した訓練の計画実施。
 - (2) 緊急時の対応マニュアルの整備
 - ①年1回対応マニュアル・BCP の見直しと周知徹底を行う。

グループホームけやきの里

年度目標

- 1 安定した基盤づくりと質の高いサービス提供。
 - (1) 優しさあふれる介護の提供
 - ① 認知症を理解し、利用者の意向を尊重したケアを実践する。
 - ② 入居者の小さな変化に気づき、適切に対応できる職員を育成する。
 - ③ 全職員が個々の目標を掲げ、研修を通じて知識・技術の習得に励むとともに、業務改善によるサービスの向上を図る。
 - (2) 入居者とその家族が安心して過ごせる介護の提供
 - ① 最期まで施設での生活を継続できるよう、多職種が連携し、入居者に寄り添った支援に努める。
 - ② 『看取り介護』についての研修を継続し、プロとしての死生観を養う。
- 2 運営目標を明確にし、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 収益について理解し、節水や節電、物品を丁寧に扱うほか、日々の環境整備に努める。
 - ① 業務内容、物品の取り扱い方法などを見直し、業務改善に取り組む。
 - ② 入居調整をスムーズに行い、稼働率 99%以上を目標とする。
 - (2) 地域のニーズを把握し地域に根差した施設運営を実践
 - ① 協力医療機関、行宣機関との連携を深めるため情報共有を行う。
 - ② 関係機関との情報共有を図り、待機者の確保に努める。
- 3 生産性向上と職場環境の整備を通じて、ケアに専念できる体制を整え、職員が働きやすい環境を構築する。
 - ① 誰が担当しても理解できる体制の整備、環境づくりに努める
 - ② 職員間の情報共有をスムーズに行い、業務効率の向上を図る。
- 4 BCP に基づいた災害対策や感染症防止対策の強化を図る。
 - (1) 計画に沿った訓練の実施、連絡体制を把握する。
 - ① 繰り返し訓練を実施することで、防災・防犯への意識を高める。
 - (2) 緊急時の対応マニュアルの理解
 - ① 対応マニュアルや BCP の把握や見直しと、研修・訓練の実践。

グループホームあかがね

年度目標

- 1 安定した基盤づくりと質の高いサービス提供。
 - (1) 優しさあふれる介護の提供
 - ① 統一したケアの実施や、職員間での情報共有を細かく行い、サービスの質の向上を図る。
 - ② 入居者や家族の意向に添った個別の支援を行う。
 - ③ 計画的な研修への参加等行い、認知症への理解をより深められるよう努める。
 - ④ 毎日安心して過ごせる環境づくりを家族にも協力を仰ぎながら行っていく。
 - (2) 看取りケアの充実
 - ① 看取りを行える環境や体制を整える。
 - ② 医療機関や家族と連携をとり、安心できる看取りケアを実施する。
- 2 運営目標を明確にし、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率の向上
 - ① 稼働率 99%以上を目指し、情報の共有や広報活動を積極的に行う。
 - ② 入居者の健康管理を徹底し、重症化防止と入院日数の削減に努める。
 - (2) 地域連携の強化
 - ① 協力医療機関・行政機関との連携を深め、地域のニーズを把握する。
 - ② 地域に根ざしたサービス提供を行い、信頼関係を構築する。
- 3 生産性向上と職場環境の整備を通じて、ケアに専念できる体制を整え、職員が働きやすい職場環境を構築する。
 - ① 業務内容を可視化し、誰でも理解できるような体制の整備に努める。
 - ② 職員間の連携を密にし、チームケアをより一層強化する。
- 4 BCP に基づいた災害対策や感染症防止対策の強化を図る。
 - (1) 定期的な防災訓練の実施
 - ① 定期的に訓練や研修を実施し、有事の際の段取りを慌てず実施できるよう取り組む。
 - ② BCP の見直しを実施し、施設の実情に応じた訓練を実施する。

グループホームしおさい

年度目標

- 1 安定した基盤づくりと質の高いサービス提供。
 - (1) 優しさあふれる介護の提供
 - ① 一人ひとりの意向を尊重し、個別のニーズに応じた支援を実践する。
 - ② 事故が発生した状況等について、各種委員会で情報共有し、対応策の充実を図る。
 - ③ 認知症への理解を深め、「その人らしい」支援を提供する。
 - ④ 入居者、家族に寄り添った安心感のある介護を実践する。
 - (2) 看取りケアの充実
 - ① 計画的に研修に参加し、認知症や看取りに関する理解を深める。
 - ② 家族との密な連携を大切にし、安らぎのある看取りケアを構築する。
- 2 運営目標を明確にし、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率の向上
 - ① 稼働率 99%以上を目標とし、計画的な広報活動・情報共有を行う。
 - ② 入居者の健康管理を徹底し、入院日数の削減、早期入居調整に努める。
 - (2) 地域連携の強化
 - ① 協力医療機関・行政機関との連携を深め、地域のニーズを把握する。
- 3 生産性向上と職場環境の整備を通じて、ケアに専念できる体制を整え、職員が働きやすい職場環境を構築する。
 - ① 重複した業務等の無駄を排除し、業務効率化を図る。
 - ② 職員間のコミュニケーションを活性化し、組織力を強化する。
- 4 BCP に基づいた災害対策や感染症防止対策の強化を図る。
 - (1) 定期的な防災訓練の実施
 - ① 定期的な防災訓練、研修を実施することで、緊急時の初動動作が円滑にできるよう取り組む。
 - (2) 緊急時の対応マニュアルの整備
 - ① BCP や対応マニュアルを施設の実情に合わせて適宜見直し、実用性を高める。

専修学校 香南学園

・専修学校 香南学園

・・・P95

専修学校 香南学園

基本方針

専修学校香南学園は、介護福祉士養成施設として確かな知識と技術を身につけた質の高い介護人材を育成し、国家試験全員合格を目指します。

地域との連携を強化し、実践的な教育と学生支援を徹底します。また、積極的な広報活動を通じて学校の魅力を発信します。

年度目標

- 1 国家試験合格に向けた適切な指導を行う。
 - (1) 国家試験を意識した授業を行い、根拠に基づいた知識と技術を養い、得点力の向上を目指す。
 - ① 学生に長期・短期目標を掲げさせ、目標の実現に向けた学習に取り組ませるとともに、日本語授業との連携を密にする。
 - ② 個別補講を実施し苦手な科目を克服する。
 - (2) JLPT の N1・N2 合格を目標に、総合的な日本語能力の向上を図る。
 - (3) 教職員の資質向上のため自己研鑽に努め、研修への参加を促進し、学生による授業評価を実施する。
- 2 生活支援のため環境の充実を図る。
 - (1) 寮則及び日本の法律を順守し、規律正しい生活を送るよう指導する。
 - (2) 定期的な個人面談を通し、勉学及び生活の不安解消に努める。
 - (3) 適切な在留管理とともに、学生の心身の健康管理、安全管理を行う。
- 3 質の高い学生の確保を行う。
 - (1) 日本人学生の入学希望者を増やすため、学校訪問や学校見学の実施、ソーシャルメディアの活用により、学校の魅力を発信する。
 - (2) 海外からの直接入学に臨機応変に対応し、積極的な受け入れを図る。
- 4 地域と協働した教育の推進を図る。
 - (1) 特別授業を通し、地域と共生できる学校を目指す。
 - (2) 学生主体の総合避難・自然災害訓練を年 5 回実施する。

特別養護老人ホーム おおいずみの里

・ 特別養護老人ホームおおいずみの里 ……P97

特別養護老人ホームおおいずみの里

基本方針

特別養護老人ホームおおいずみの里は、地域特性やニーズを的確に把握し、地域で求められる施設サービスを提供します。そのため、人材の育成および確保に注力し、多様性のある社会においても働きやすい職場づくりを推進することで、事業運営の安定化を図ります。

また、地域や公的機関と連携し、緊急災害時に備えた危機管理体制の強化に取り組めます。

年度目標

- 1 法人の重点目標を推進し、質の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 過去の事故事例を施設内で共有し、職員一人ひとりの危険予測力を高め、類似事故の未然防止を推進する。
 - (2) 施設内外の研修に参加し、認知症介護に関する専門性を高めるため、知識や課題を共有するとともに、地域の特性やニーズを把握する。
- 2 事業所の経営基盤の安定に向けた施設運営を目指す。
 - (1) 近接区外も含めた広い地域で広報活動を実施し、関係機関との連携強化を図り入所稼働率 98%、ショートステイ稼働率 90%を目指す。
 - (2) 業務体制を見直し、人員配置の最適化と生産性向上を進め、安定した収支構造を目指す。
- 3 人材育成および間管理職の経営意識向上を目指す。
 - (1) 自己学習を支援する体制の充実を図り、スキルアップおよび資格取得を促進する。
 - (2) 各種会議において運営状況や課題を共有することで、中間管理職の経営意識の向上と主体的な関与を促進する。
- 4 危機管理対策の強化を推進し、地域との連携を図る。
 - (1) BCP に基づく計画的な避難訓練および連絡訓練を通じて基本動作を徹底し、緊急時の対応力と連絡体制を強化するとともに、地域・公的機関との連携、災害用備蓄品の整備を進め、福祉避難所の迅速かつ円滑な運営体制を整える。

有料老人ホーム

- ・ 有料老人ホーム ……P99
- ・ 有料老人ホームあさくらの里 ……P100
- ・ 有料老人ホームながはまの里 ……P101
- ・ 有料老人ホームゆりぐるまの里 ……P102
- ・ 認知症デイサービスセンターかがやき ……P103
- ・ デイサービスセンターすみれ ……P104
- ・ 認知症デイサービスセンターさくら ……P105

有料老人ホーム

基本方針

高齢化のピークを迎える地域社会において、高齢者の生活の場の提供及び QOL の維持に対するニーズに応えていけるよう、関係機関等への周知や情報収集を行い、連携を図ると共に職員個々の質を高め雇用の定着と合わせて働きやすい環境づくりを念頭に生産性の向上を図っていきます。また、自然災害に備え BCP に基づく訓練を繰り返し重要な社会資源としての役割を果たすべく事業運営の安定化に取り組みます。

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく。
- 2 質の高いサービスの提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組み働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
- 3 自然災害に対して、適時 BCP を見直し地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む

有料老人ホーム あさくらの里

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく。
 - (1) 広報活動を広範囲に展開し、地域の社会資源としての役割を果たす。
 - ① 医療機関や居宅介護支援事業所など関係機関の情報収集をする。
 - ② 広報活動月 75 件以上、待機者を常時 3 名以上確保する。
 - (2) 入居者が安心・安全な生活が継続できるように取り組む。
 - ① 入居者の健康管理を徹底し、嘱託医及び専門職種との速やかな連携により適切な対応策を講じ、重症化を防ぐ。
- 2 質の高いサービスの提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組み働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - (1) リスクマネジメント強化に努める。
 - ① 入居者のニーズや状態に添った、環境整備を行う。
 - ② 関係職員と連携し、事故再発防止に努める。
 - (2) 入居者の情報を関係事業所と共有し、適切なサービスの提供に努める。
 - ① 入居者の意向を傾聴し、要求に速やかに対応できるようにする。
 - ② 職員各々が研修（法人内、外）に参加し、質の向上に努める。
 - (3) 業務の見直しを行い、効率化を図る。
 - ① 業務の内容を明確にし、標準化を図る。
 - ② 業務の課題を分析し、随時見直しを行う。
- 3 自然災害に対して、適時 BCP を見直し地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む
 - (1) 職員一人ひとりが入居者の安全確保ができる体制を整える。
 - ① 施設の立地条件を把握し、適切な対応をする。
 - ② 災害時に、備品など飛散しないよう、環境整備を定期的に行う。

有料老人ホーム ながはまの里

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく。
 - (1) 広報活動を広範囲に展開し、地域の社会資源としての役割を果たす。
 - ① 医療機関や居宅介護支援事業所など関係機関の情報収集をする。
 - ② 問合せ件数月 15 件以上いただける広報活動の実施。
 - ③ 稼働率 98%の達成の為、入退去をコントロールしていく。
 - (2) 入居者が安心・安全な生活が継続できるように取り組む。
 - ① 入居者の健康管理を徹底し、嘱託医及び専門職種との速やかな連携により適切な対応策を講じ、重症化を防ぐ。
- 2 質の高いサービスの提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組み働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - (1) リスクマネジメント強化に努める。
 - ① 入居者のニーズや状態に添った、環境整備を行う。
 - ② 関係職員と連携し、事故再発防止に努める。
 - (2) 入居者の情報を関係事業所と共有し、適切なサービスの提供に努める。
 - ① 入居者の意向を傾聴し、要求に速やかに対応できるようにする。
 - ② 職員各々が研修（法人内、外）に参加し、質の向上に努める。
 - (3) 業務の見直しを行い、効率化を図る。
 - ① 業務の内容を明確にし、標準化を図る。
 - ② 業務の課題を分析し、随時見直しを行う。
- 3 自然災害に対して、適時 BCP を見直し地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む
 - (1) 他施設、地域と連携し被害の最小化を図る。
 - ① 定期的に、実行性のある反復訓練を行い備える。
 - ② 備品や設備等の環境整備を定期的に行う。

有料老人ホーム ゆりぐるまの里

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく。
 - (1) 地域の社会資源としての役割を果たす広報活動の実施。
 - ① 情報収集活動を行い地域のニーズを把握し適時提案を行う。
 - ② 入退去調整を円滑に行い、稼働率 98%を目指す。
 - (2) 入居者の生活を適切に維持し安定した事業運営を目指す。
 - ① 入居者の健康管理と環境整備を行い、嘱託医及び専門職種との連携を図る事で重症化や入院を抑制していく。
- 2 質の高いサービスの提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組み働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - (1) 働きやすい、生活しやすい環境の整備を進める。
 - ① 入居者の状態に応じた、環境整備を行う。
 - ② 業務の見直しを適時行い、効率化を図る。
 - (2) リスクマネジメントに対しての教育の実施
 - ① ヒヤリハット等の共有と、対策の実行
 - ② 法人内研修等へ半年に 1 回参加し意識の向上を図る
- 3 自然災害に対して、適時 BCP を見直し地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む
 - (1) 備蓄品や設備の整備及び管理を行い災害に備える。
 - ① 定期訓練に組み込み賞味期限や耐用年数の確認の実施。
 - (2) 年間計画及び BCP に基づき、各種訓練を行う。
 - ① 表出した課題を改善する計画の見直しを適時行う。
 - ② 地域との連携を民生委員等との交流を図る事で強化する。

認知症デイサービスセンター かがやき

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく。
 - (1) 利用者が社会参加できる機会を提供し、心身機能の維持・向上を図る。
 - ① 多様なニーズに対応したサービスの提供に努める。
 - ② 個別活動やレクリエーションの内容を充実させ、心身機能の維持・向上に努める。
 - (2) 地域との交流を促進し、地域福祉の向上に寄与する。
 - ① 運営推進会議などを通して意見、要望をサービスに反映する。
 - ② 地域行事の参加やボランティアを受け入れる。
- 2 質の高いサービスの提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組む働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - (1) 職員の資質向上と人材育成に取り組む
 - ① 専門的に必要な資格を目指す。(1名認知症介護実践者研修修了)
 - ② 内部研修、外部研修に参加し知識及び、技術の習得に努める。
(年間15回参加し、伝達)
 - (2) 職員がやりがいを感じる職場環境作りに取り組む。
 - ① 有休休暇を計画的に取得する。
 - ② 職員の状況を把握し適切な助言を行う。
 - ③ 職員間で情報共有を行い、良好な関係の構築に努める。
 - ④ 職員会など、定期的に職員が発言できる場をつくる。
- 3 自然災害に対して、適時BCPを見直し地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む。
 - (1) 災害発生時に備え、防災に関する地域の取り組みや現状の把握に努める。
 - ① 運営推進会議や地域主催の防災訓練に参加する中で、地域住民との関係性を築き、災害発生時の協力体制を整備する。

デイサービスセンターすみれ

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく
 - (1) 利用者様の健康維持を図り、利用を継続できるようにする。
 - ① 基本的な感染予防対策を心掛け、手洗い、うがい、換気等を徹底して行っていく。
 - ② 利用者様の身体状態、心身状態を観察し、普段と変わった様子があれば早急に関係各所へ報告し、職員間で情報共有を図りながら利用者様に合った適切なケアを行う。
- 2 質の高いサービス提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組み働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - (1) 職員にとって働きやすい職場を目指す。
 - ① 休暇制度、年次有給休暇の取得の促進、超過勤務時間の管理を行い、職員がより業務に取り組める環境になれるよう努める。
 - ② 業務の役割分担を明確にし、効率よく業務が進められるよう努める。
 - (2) 質の高いサービス提供が行えるよう、職員によるケアの向上を目指す。
 - ① 関連する研修へ参加していき、専門的な知識の習得及び技術の向上を図る。
- 3 自然災害に対して、適時 BCP を見直し、地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む。
 - (1) 自然災害に備え、事業所や近隣にある危険な場所を把握する。
 - ① ハザードマップ等を活用する事で、事業所、近隣の危険な場所を確認したうえで防災対策、訓練を実施する。
 - (2) 地域の関係各所との情報共有、連携を行い、地域での実情を把握する事で利用者様が安心して生活が送れる環境をつくれるよう心掛ける。
 - ① 運営推進会議、地域交流の場へ参加する事で地域の実情やニーズを把握し、今後の防災対策に生かせるようにしていく。

認知症デイサービスセンターさくら

年度目標

- 1 常に地域における各種ニーズの把握を行い福祉サービスとしての役割を果たしていく。
 - (1) 安定した利用に繋がるよう利用者の健康状態の維持に努める。
 - ①基本的な感染症対策の徹底と感染症予防に努める。
 - ②気づきの視点を職員各々が持ち、普段と変わった様子について他職種と連携し、利用者の健康状態を把握する。
 - (2) 事業所の収益を意識し、毎月の稼働率 98%以上に維持する。
 - ①利用休みを防ぎ、安定した事業運営を目指す。
 - ②介護度に応じたサービスの提供を行えるよう区分変更や利用回数の見直しを居宅介護支援事業所と連携していく。
- 2 質の高いサービスの提供と働きやすい職場環境の両輪を構築する為に、職員個々が意識的に業務改善等生産性の向上に取り組み働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - (1) 専門性を高め働くモチベーションを向上させる。
 - ① 職員各々が認知症高齢者の特性を習得し利用者に対する理解を深める。
 - ②内部外部研修に参加し習得した知識、技術を共有する。
 - (2) チームケアを意識し共通したサービス提供ができるよう努める。
 - ①ヒヤリハットを活用し危険リスクを把握し情報共有する。
 - ②職員間での負担の偏りを是正しチームケアを通じてサービスを提供する。
 - (3) 業務手順を明確にし、一人でも多くの利用者に質の高いケアを届ける。
 - ①利用頻度に応じた整理整頓清掃を心掛け、施設備品を大切に使用する。
 - ②利用者の自立支援を意識し、利用者の存在を支える。
- 3 自然災害に対して、適時 BCP を見直し地域と連携した実効性のある防災対策に取り組む
 - (1) 地域の中で利用者が生活しやすい環境をつくる。
 - ① 定期的な避難訓練を実施する。
 - ア 職員一人ひとりが計画内容を理解する。
 - イ 職員の役割分担を明確にし、利用者の安全確保に努める。
 - ② 地域との交流の場に参加し地域のニーズを把握する。

特別養護老人ホーム はるえの里開設準備室

・ 特別養護老人ホームはるえの里開設準備室 ……P107

特別養護老人ホームはるえの里開設準備室

基本方針

特別養護老人ホームはるえの里は、2027 年 10 月の開設に向け、各職種の積極的な求人活動を行い、職員の確保に取り組めます。また、採用した職員については、各部署と連携し、研修をとおして人材育成に努めます。

建築工事については、工事の遅延がないよう、設計会社や建築関係業者との連携を図り、工事の進捗状況や様々な課題を把握し、対応いたします。

また、地域住民や行政・福祉・医療等の関係機関との信頼関係の構築に努めます。

年度目標

- 1 開設に必要な人材確保、人材育成を計画的にすすめる。
 - (1) ハローワーク等の就職支援機関へ定期的に訪問し、情報収集を行なう。
 - (2) 就職説明会の開催や求人サイト等の WEB 媒体を活用し、人材を確保する。
 - (3) 採用した職員は、教育部、人事部等の関係部署と連携し、計画的な研修を実施する。
- 2 開設までのスケジュール管理と工事の進捗状況の把握を行う。
 - (1) 開設までに必要な備品選定や申請書類等の準備を行う。
 - (2) 建設関係業者との定期的な連絡会をとおし、工事の進捗状況や課題を把握する。
- 3 地域や関係機関へ開設の周知をし、連携を図る。
 - (1) はるえの里が地域資源として認知されるよう広報活動を実施する。
 - (2) 広報活動をとおして、関係機関との関係構築を図る。

